

地域データ利活用促進事業(調査分析事業)に係る
買物弱者対策実態調査報告書

平成 29 年 2 月

鹿児島県

目 次

はじめに

目的	1
----	---

第 I 章 調査の内容

1 対象地域・地区	2
2 調査事項	3
3 分析及び買物弱者対策のまとめ	3
調査フロー図	3

第 II 章 背景

1 人口減少	4
2 商店街空洞化	5
3 買物弱者	7

第 III 章 各地域の状況

1-1 指宿市の状況	8
2 岡児ヶ水地区の状況	13
3 岡児ヶ水地区の消費行動、消費者ニーズ	14
4 岡児ヶ水地区の課題及び対策の検討	22
2-1 垂水市の状況	24
2 二川地区の状況	31
3 二川地区の消費行動、消費者ニーズ	32
4 二川地区の課題及び対策の検討	40
3-1 薩摩川内市の状況	42
2 砂岳地区の状況	50
3 砂岳地区の消費行動、消費者ニーズ	51
4 砂岳地区の課題及び対策の検討	59
4-1 始良市の状況	61
2 竜門地区の状況	66
3 竜門地区の消費行動、消費者ニーズ	67
4 竜門地区の課題及び対策の検討	75

5 - 1	さつま町の状況	77
2	永野地区の状況	86
3	永野地区の消費行動、消費者ニーズ	87
4	永野地区の課題及び対策の検討	95
6 - 1	南大隅町の状況	97
2	島泊地区の状況	103
3	島泊地区の消費行動、消費者ニーズ	104
4	島泊地区の課題及び対策の検討	112
第IV章 買物弱者対策の検討		
1	「買物弱者応援マニュアル」の視点	114
2	対策案の検討	115
第V章 買物弱者対策のまとめ		
1	買物弱者対策案：店を作ろう	116
2	買物弱者対策案：商品を届けよう	121
3	買物弱者対策案：出かけやすくしよう	129

はじめに

目的

近年、地方における人口減少・少子高齢化の進展や大型店舗の郊外への出店等により、地元の商店やスーパーマーケット等の閉店が進む一方で、公共交通網の見直しや高齢化の進展による運転免許証の返納等の問題も発生し、日常の買物に支障を来すいわゆる「買物弱者」が増加している。

また、対象となる方も、高齢者のみならず、障害のある方や妊婦など多岐に亘る。

このように、日常の買物に支障を来す「買物弱者」は、健康問題など社会の波及的問題につながる可能性がある重要な課題であるものの、その原因は複合的であり、早急な現状把握と対策が求められている。

そこで「買物弱者」に係る現状や課題等の実態を把握し、地域に潜在する様々なデータを地方創生に活用するため、調査分析事業を実施した。

1 対象地域・地区

(1) 対象地域

本調査では、鹿児島県内の現状を広く調査するために、南薩・北薩・大隅など地域振興局レベルでの地域のバランスに配慮するとともに、人口規模や高齢化率も考慮したうえで、調査対象となる「対象地域」を以下の6地域とした。

振興局レベル	対象地域
南薩方面	①指宿市
北薩方面	③薩摩川内市、⑤さつま町
始良・伊佐方面	④始良市
大隅方面	②垂水市、⑥南大隅町

【人口規模】

- 大規模（100千人規模）：③薩摩川内市
- 中規模（50千人規模）：①指宿市、④始良市
- 小規模（30千人規模）：②垂水市、⑤さつま町、⑥南大隅町

【高齢化率】

- 40%超：⑥南大隅町
- 30%台：①指宿市、②垂水市、⑤さつま町
- 20%台：③薩摩川内市、④始良市

(2) 対象地区

本調査では、対象地域における買物弱者の状況をより具体的に把握するため、地域ごとに、より詳細な調査を行う「対象地区」を設定した。

「対象地区」は、人口・高齢化率等の人口動態、買物施設の分布、公共交通機関の運行状況等に加え、各自治体における買物弱者対策の実施状況等を考慮し選定した。

対象地域	対象地区
①指宿市	おかちよがみず 岡見ヶ水地区
②垂水市	ふたがわ 二川地区
③薩摩川内市	すなだけ 砂岳地区
④始良市	りゅうもん 竜門地区
⑤さつま町	ながの 永野地区
⑥南大隅町	しまどまり 島泊地区

第 I 章 調査の内容

2 調査事項

(1) 対象地区の基礎情報

各地区の人口、年齢構成、高齢化率等について調査した。

(2) 各地区の資源

地区の基礎情報に加え、公共交通機関の運行状況など、地域で持続的に活用できる資源について調査した。

(3) 消費行動・消費者ニーズ

地区住民へのアンケート等により、地域住民の消費行動・消費者ニーズについて調査した。

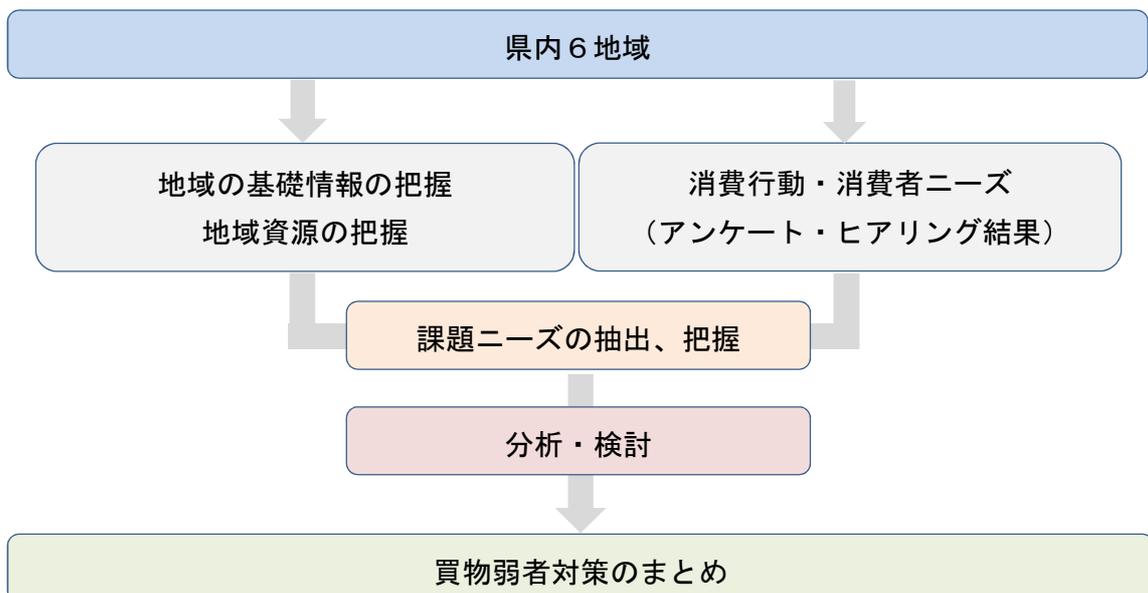
また、対象地域において、地域住民の生活支援における中心的な活動を行っている自治会長や民生委員へのヒアリングも実施した。

3 分析及び買物弱者対策のまとめ

「2 調査事項」にて得られた調査結果をもとに、各地域の買物弱者対策に有効と思われる対策を分析した。なお、分析にあたっては、先進地の取組等も参考にしつつ、今後の買物弱者対策の施策にも活かせるように、コストや継続性などの実践的な項目等も調査している。

- 地域が抱える課題や将来予測
- 有効と思われる対策
- 対策を実施するうえで活用（マッチング）可能と思われる地域資源
- 対策の実施にあたり、解決すべき問題等

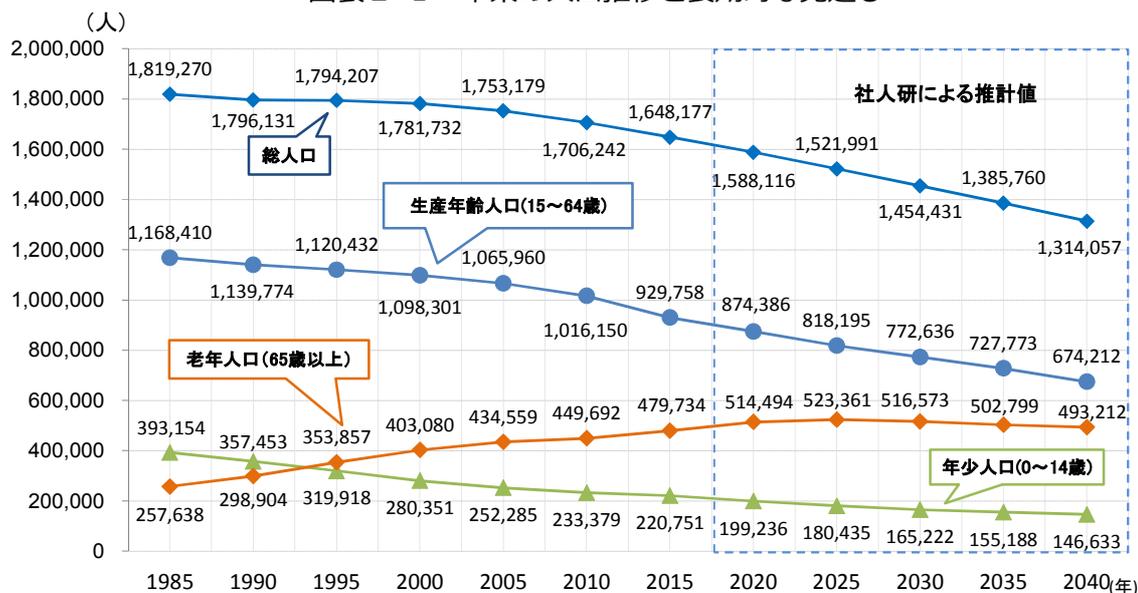
調査フロー図



1 人口減少

本県の人口は、164万8,177人（2015年国勢調査）と2010年比で3.4%減少しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の将来推計人口をみても、2040年には131万4,057人まで減少する見込みである。

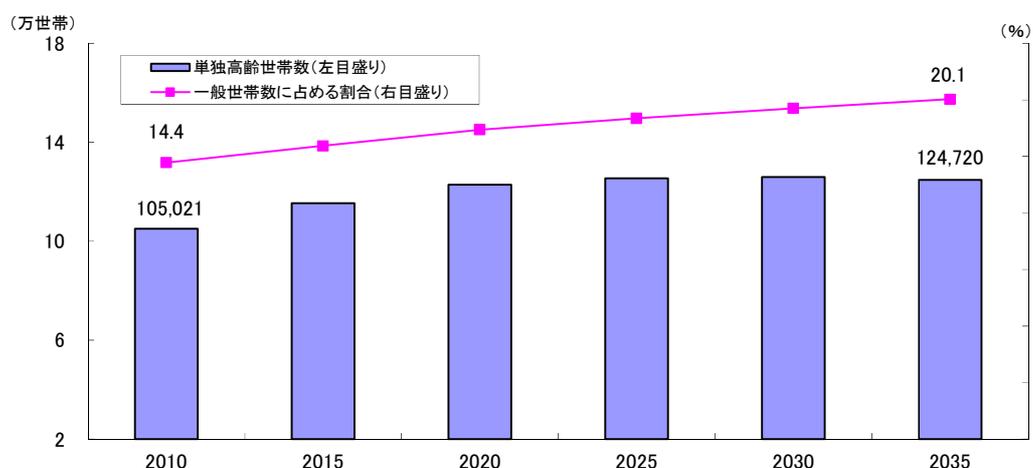
図表 2-1 本県の人口推移と長期的な見通し



資料) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

また、本県の単独高齢世帯は2010年の10万5,021世帯から2035年は12万4,720世帯へ増加し、一般世帯に占める割合も同期間で14.4%から20.1%へと5.7ポイント上昇する。

図表 2-2 本県の単独高齢世帯の推移



注) 単独高齢世帯は世帯主が65歳以上の単独世帯、2015年以降は推計
資料) 国立社会保障・人口問題研究所

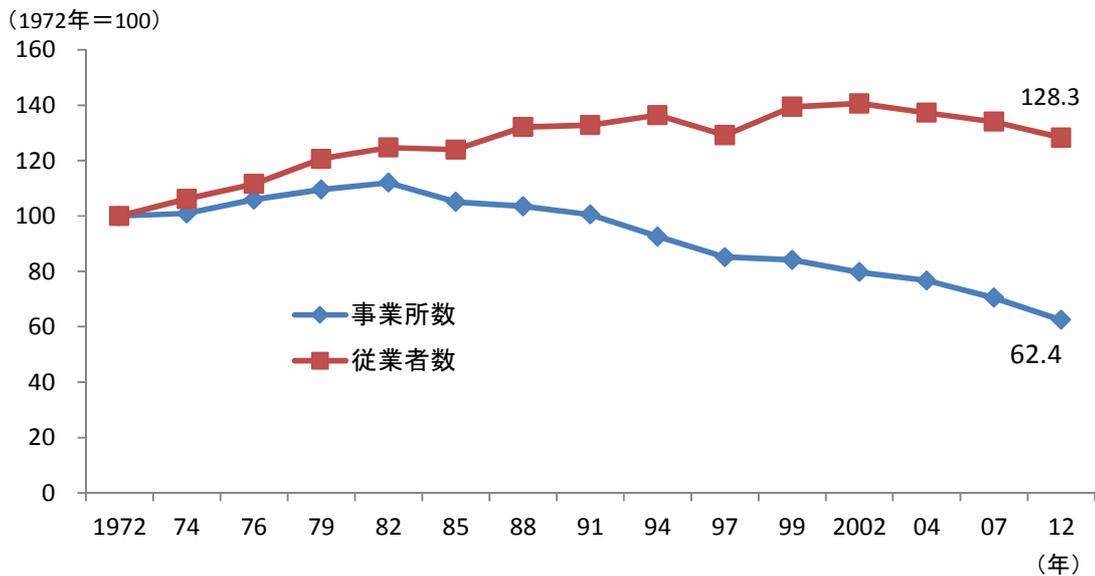
第Ⅱ章 背景

2 商店街空洞化

本県の小売業の事業所数・従業者数の推移をみると、従業者数は1972年比128.3%と増加している一方、事業所数は62.4%と大きく減少している。

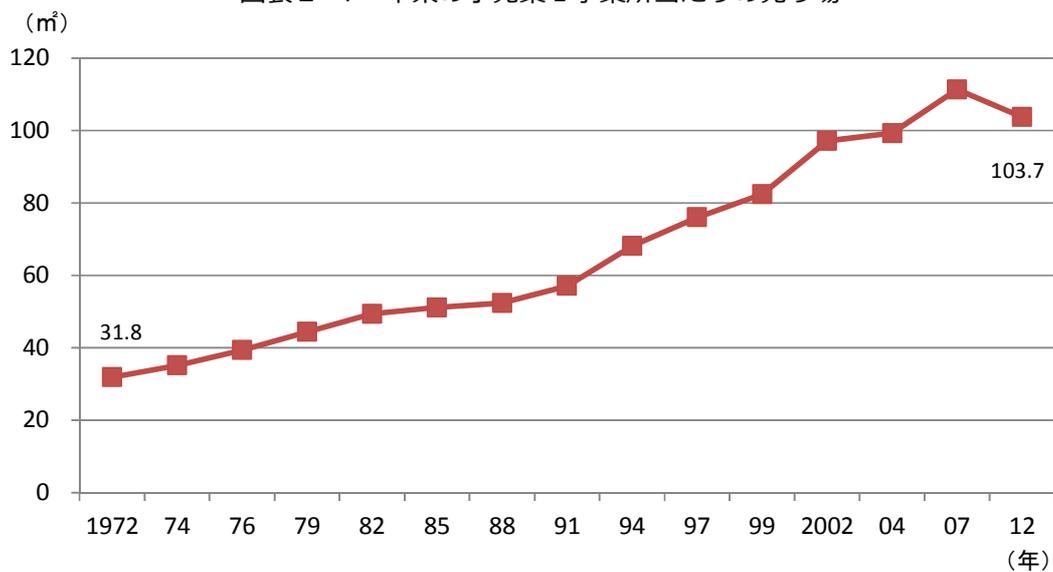
また、売り場面積の推移をみると、2012年は減少しているものの、2007年までは一貫して増加していることから、ショッピングモールなど店舗の大型化とともに、小型店舗の減少が進展しているものと考えられる。

図表 2-3 本県の小売業の事業者数、従業者数の推移(指数)



資料) 商業統計(~07年)、経済センサス(12年) (以下同様)

図表 2-4 本県の小売業1事業所当たりの売り場



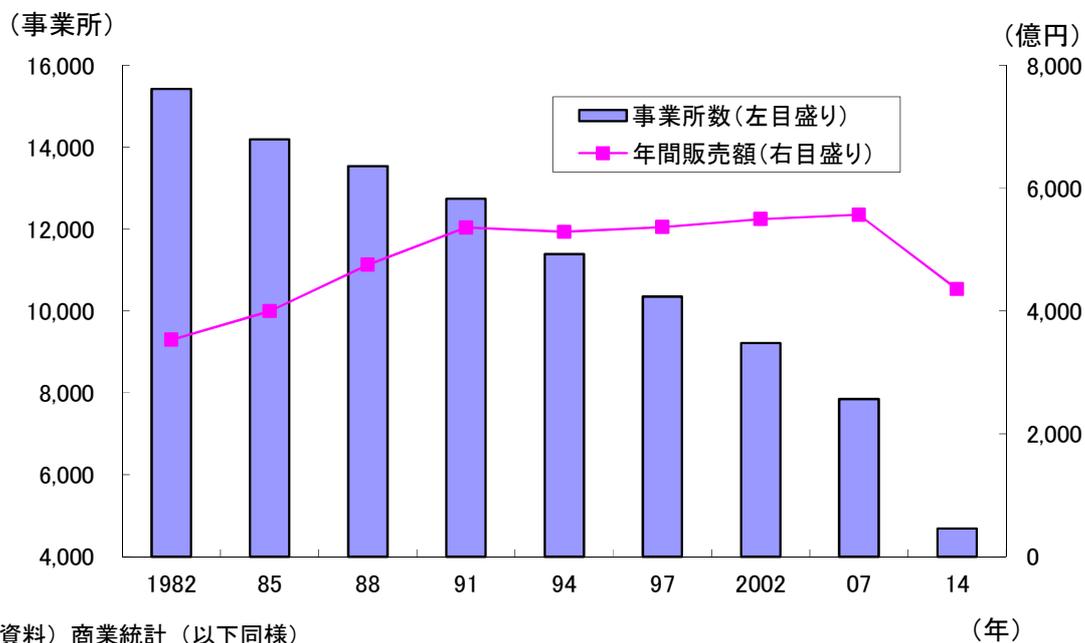
第Ⅱ章 背景

小売業のうち、飲食料品小売業を見ると、年間販売額は2014年を除き、1982年以降、概ね増加傾向で推移しているのに対し、事業所数は減少の一途をたどっている。

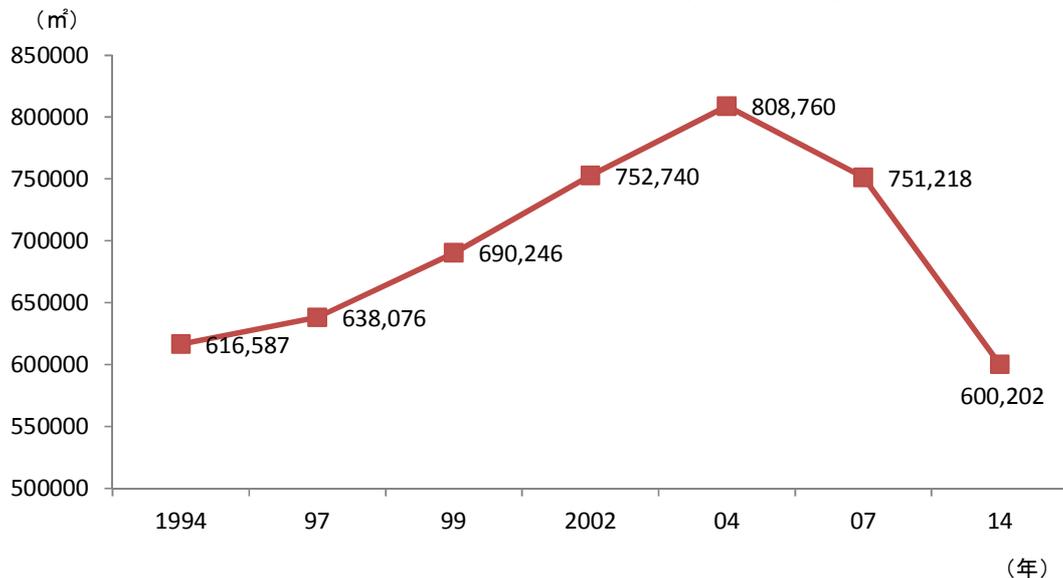
これは、一部の大手飲食料品小売業が拡大する一方で、地域中小商店の廃業、撤退が増えていることが考えられる。

また、飲食料品小売業については、前述の小売業以上に、直近の事業所数及び売り場面積の減少が著しいことから、大型ショッピングモールの開設等により、地域の中小商店の廃業・撤退が一層進展しているものと考えられる。

図表2-5 本県の飲食料品小売業(事業所数、年間販売額)



図表2-6 本県の飲食料品小売業(売り場面積)



第Ⅱ章 背景

3 買物弱者

農林水産省の試算では、生鮮品販売店舗までの距離 500m以上かつ自動車を持たない高齢者は全国で 3,800 千人いると推計されている。その試算によると、本県も 88 千人が存在するとされており、県の 65 歳以上総人口に占める割合は 2 割弱(19.6%)と全国でも 2 番目に高い割合となっている。

しかしながら、高齢者が買物をし難くなっている状況は、必ずしも過疎化の進んだ地域だけに存在するものではない。

2040 年の市町村別の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の人口（老齢人口）の割合）は、南大隅町、錦江町などで高くなる一方で、老齢人口の増加率（2010 年から 2040 年まで）をみると、鹿児島市、霧島市などの市部が上位に並び、老齢人口も増加する。絶対数でみると、むしろ市部のほうが深刻な問題であるとも言える。

また、生鮮食料品の買物が困難であることは、単に「買物が不便である」ということにとどまらない。栄養の偏りによる健康問題やコミュニティ崩壊による高齢者の孤立等の側面もあり、高齢化が全国より早く進行している本県にとって対応が急がれる問題となっている。

図表 2-7 生鮮品購入が困難な高齢者人口 及び 65 歳以上比率（2040 年）、65 歳以上人口

順位	生鮮品販売店舗まで500m以上			うち自動車を持たない		
	都道府県	65歳以上 総人口比 (%)	65歳以上 人口 (千人)	都道府県	65歳以上 総人口比 (%)	65歳以上 人口 (千人)
1	島根県	64.4	134	長崎県	20.1	74
2	岐阜県	62.6	313	鹿児島県	19.6	88
3	岩手県	62.2	224	高知県	18.6	41
4	長野県	60.0	342	北海道	18.3	248
5	滋賀県	60.0	173	広島県	17.7	120
6	茨城県	59.4	395	島根県	17.1	35
7	鳥取県	57.2	88	岡山県	17.0	83
8	秋田県	57.0	183	徳島県	16.9	35
9	三重県	56.5	253	岩手県	16.8	61
10	徳島県	55.8	117	兵庫県	16.6	213
11	福島県	55.6	281	愛媛県	16.6	63
12	岡山県	54.3	263	山口県	16.4	67
13	鹿児島県	53.9	242	熊本県	16.0	74

	全国	38.9	11,000	全国	13.1	3,800

43	福岡県	30.4	342	静岡県	9.5	85
44	京都府	28.7	174	富山県	9.3	27
45	神奈川県	20.6	374	沖縄県	9.1	22
46	大阪府	16.7	329	山形県	8.9	29
47	東京都	9.3	246	東京都	6.5	172

資料) 農林水産省農林水産政策研究所

	市町村名	65歳以上の 人口比率
1	南大隅町	52.5
2	錦江町	50.6
3	瀬戸内町	49.8
4	湧水町	48.8
5	大和村	48.3
6	垂水市	47.3
7	南種子町	46.5
8	肝付町	46.0
9	宇検村	45.8
10	曾於市	45.6

	市町村名	人口(人)		増減率(%) (2010-40)
		2010年	2040年	
1	鹿児島市	129,450	183,810	42.0
2	霧島市	28,789	38,266	32.9
3	始良市	19,401	23,012	18.6
4	龍郷町	1,782	2,028	13.8
5	鹿屋市	26,108	29,494	13.0
6	奄美市	11,916	13,046	9.5
7	与論町	1,649	1,767	7.2
8	薩摩川内市	26,998	28,372	5.1
9	屋久島町	3,807	3,964	4.1
10	出水市	15,189	15,516	2.2

資料) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

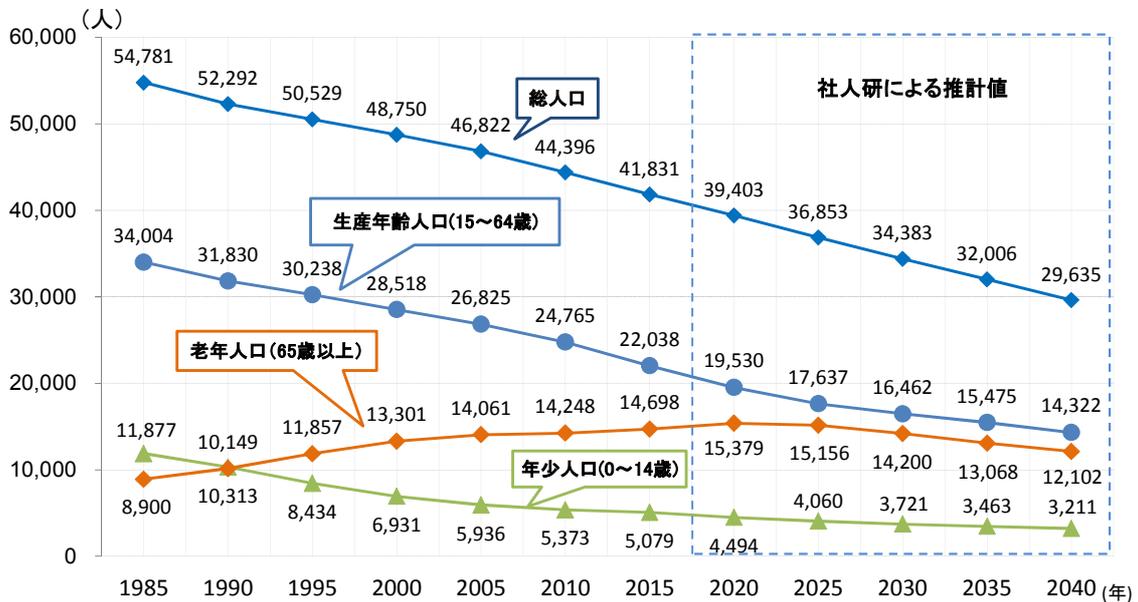
1 指宿市の状況

(1) 人口・年齢構成

指宿市の総人口は、減少傾向にあり、2015年の国勢調査では4.1万人となっている。社人研の試算では、今後も減少すると推計されており、2040年には2.9万人と、1985年の5.4万人から約半減するとされている。

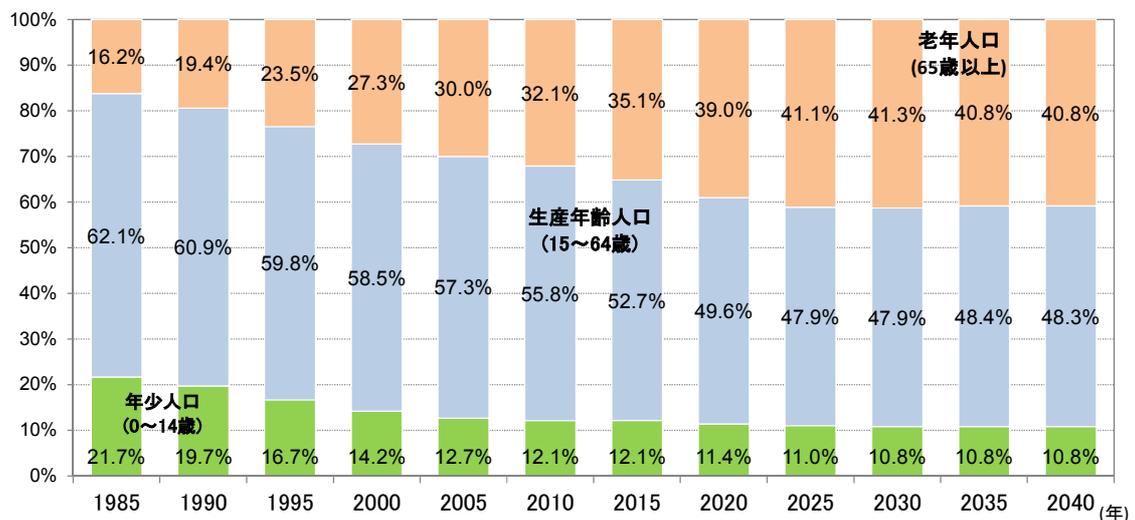
65歳以上の高齢人口は、2020年の1.5万人までは緩やかに増加するが、その後は、逡減していくと推計されている。一方、老年人口の割合（高齢化率）は増加傾向にあり、2025年以降は、総人口の4割を超えると推計されている。

図表3-1 指宿市 年齢3区分別人口の推移「人口ビジョン」



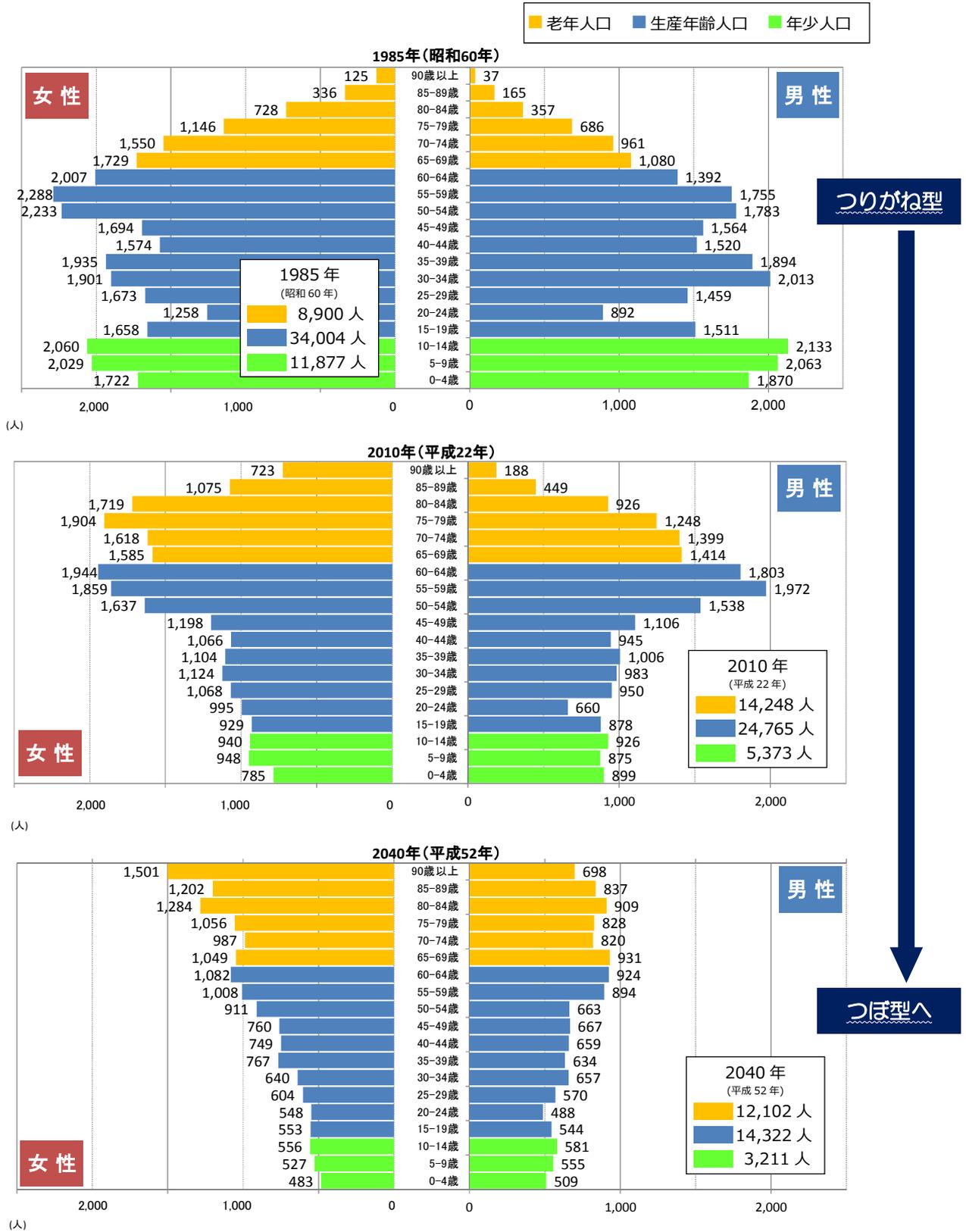
資料) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（以降同様）

図表3-2 指宿市 年齢3区分別人口割合の推移「人口ビジョン」



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

図表 3-3 指宿市 人口ピラミッドの推移 「人口ビジョン」



第三章 各地の状況（1. 指宿市）

2 岡児ヶ水地区の状況

（1）岡児ヶ水地区の概要

岡児ヶ水地区は指宿市の南部に位置する山川地区（旧山川町）内にある。

薩摩半島の南端に位置し長崎鼻灯台を有するとともに、フラワーパークかごしまや長崎鼻パークガーデンも立地している。

地区内では温暖な気候を生かした畑作や果樹栽培が行われている。

（2）人口・年齢構成 ※2016年10月時点

人口は 1,039 人、世帯数は 538 世帯

65歳以上の高齢人口は 496 人（高齢化率：47.7%）

（3）地区の状況

①生活利便施設の状況

地区内に個人商店はあるものの、品揃えは豊富ではないため、肉・魚等の生鮮品を求める場合は市街地のスーパーまで行かなければならない。

②公共交通の状況

地区内は、路線バスが2系統（毎日）、コミュニティバスが1系統（火・木・土、1日2往復）運行しているが、乗車率は低調。

路線バス	山川⇄開聞	月～金：1日5便、土・日・祝：1日1便
	指宿駅⇄エコキャンプ場	毎日：1日12便
コミュニティバス	開聞・徳光・成川線	火・木・土：1日2便

③買物支援サービスの状況

住民は高齢であっても自家用車で買物に出るのが一般的である。

介護認定を受けている高齢者は、ヘルパーの自宅訪問の際に必要なものを依頼し、次回訪問時に買ってきてもらうことで必要なものを揃えている。

現状では、移動販売車の運行は行われていない。

④その他（ボランティアグループ）

生活支援を主目的としたボランティアグループは見当たらないものの、近隣市町に住む子世代が週に1回程度様子見に帰省する際、周辺住民の買物を代行することもある。

図3-7 指宿市岡児ヶ水地区



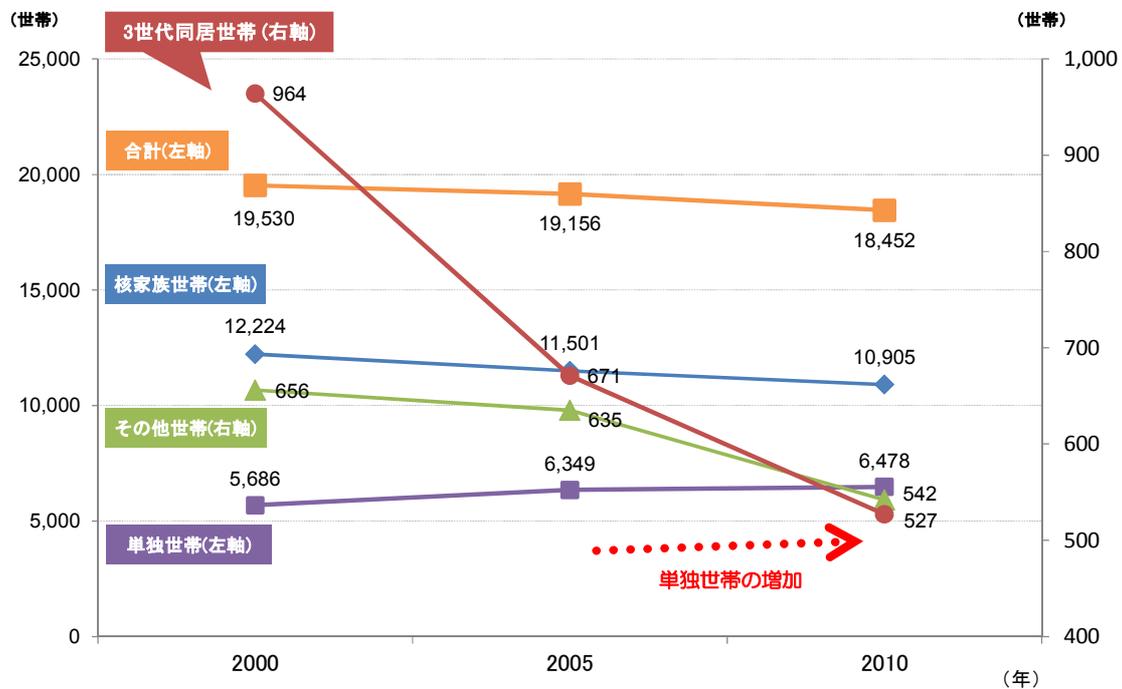
第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

（2）世帯の状況

指宿市の世帯数の推移をみると、総世帯数はやや減少している。うち「核家族世帯」、「3世代同居世帯」、「その他世帯」が減少しているのに対し、世帯人員が一人である「単独世帯」のみが増加している。

「単独世帯」が増加している要因の一つとして、高齢夫婦の世帯で、配偶者と死別後に子どもと同居しないケースが増加し、高齢者の単独世帯が増加していることが考えられる。

図表 3-4 指宿市 家族類型別世帯数の推移 「人口ビジョン」



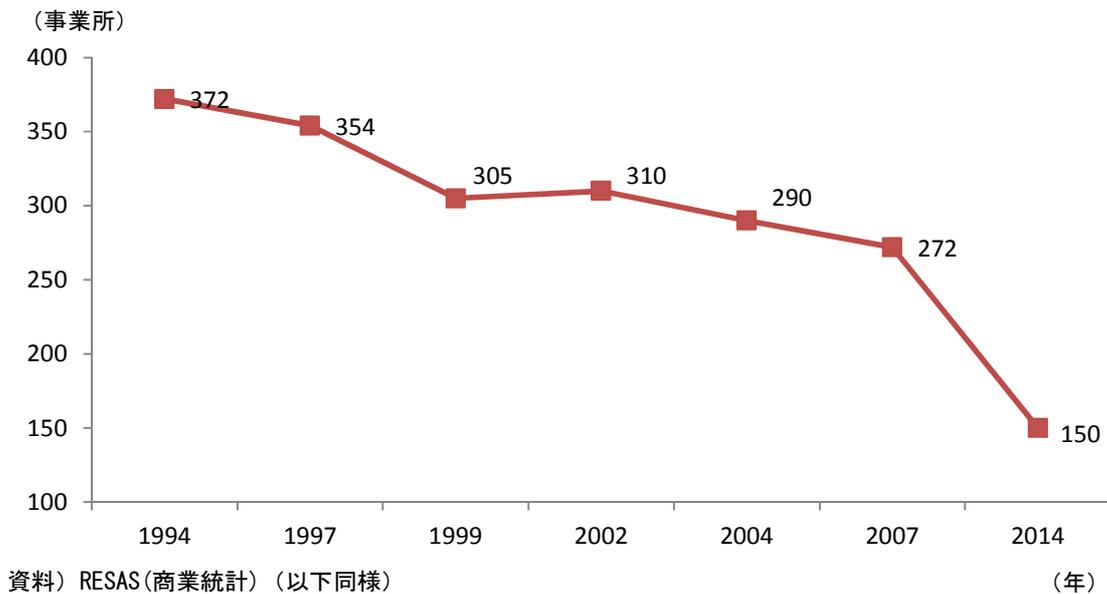
資料) 国勢調査

第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

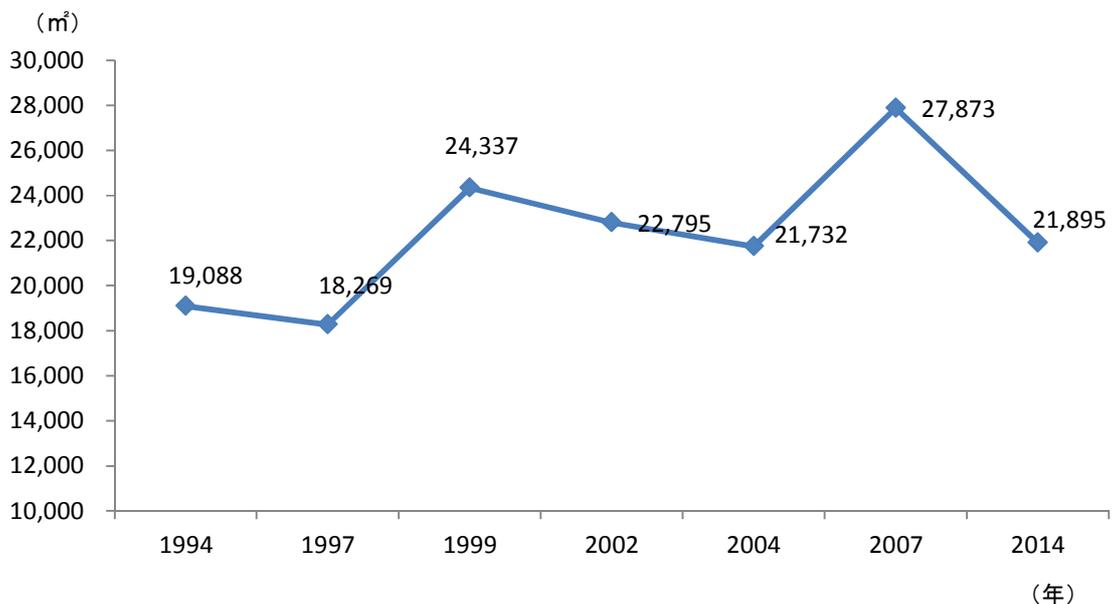
（3）飲食料品小売業の状況

地域経済分析システム（RESAS）を利用し、指宿市の飲食料品小売業の事業所数の推移をみると、1994年以降、減少傾向となっており、2014年は150事業所と1994年の372事業所の半数以下にまで減少している。一方、売り場面積の推移をみると、概ね増加傾向にあり、2007年に27,873㎡まで増加しているが、2014年には21,895㎡と減少している。

図表 3-5 指宿市の飲食料品小売業（事業所数）



図表 3-6 指宿市の飲食料品小売業（売り場面積）



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

（4）総合計画（買物支援関連施策）

①指宿市の課題

「第二次指宿市総合振興計画」において、まちづくり及び公共交通の課題として

- ◆今後の人口減少社会では、地域内の日常を支えていた様々なサービス機能が縮小し、孤立する高齢者等が増えると考えられる。豊かで安全・安心な地域社会を持続可能なものにしていくためには、協働の担い手となりうる多様な主体が連携する新たな仕組みや市民の主体的・自立的活動の活性化に結び付くような新たな施策の展開が求められている。
- ◆高齢者や通勤・通学者にとって重要な交通手段である路線バスや、地域に定着している市内循環バス、薩摩半島と大隅半島を結ぶ山川・根占航路等は本市の観光振興や物流にとって重要な公共交通手段であり、その安定運行が望まれている。

が挙げられている。

②総合計画における買物弱者対策の方向性

上記の課題に対し「第二次指宿市総合振興計画」では、まちづくりにおいて

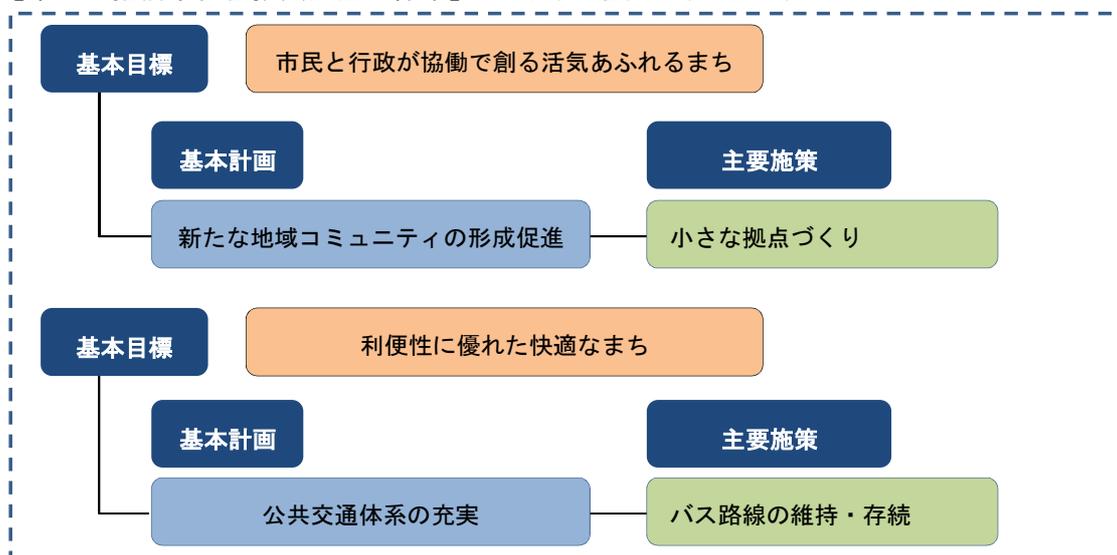
- ◆人口減少が進む中、ヒトやモノ、サービスの循環を図ることで、住民生活を支える新たな地域運営の仕組み（集落生活圏の維持）づくりを推進する。
- ◆地域住民に必要な様々な生活サービスや地域活動などをつなぐ「小さな拠点」づくりを目指す。

を主要施策として定めており、また、公共交通においては、

- ◆高齢者など、交通弱者にとって重要な交通手段である路線バスについては、関係機関と連携した維持・存続に努める。
- ◆市内循環バスについては、利用促進を図るとともに、効率的な運行に努める。

を主要施策として定めている。

【第二次指宿市総合振興計画の体系】 ※買物支援関連部分を抜粋



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

3 岡児ヶ水地区の消費行動、消費者ニーズ(住民へのヒアリングによるアンケート結果)

(1) アンケート実施内容

①目的

地区の住民に対し、ヒアリングによるアンケート調査を実施し、食料品や日用品の主な調達方法等の消費行動や買物支援に対する要望などの消費者ニーズを把握することで、買物弱者対策を検討するうえでの参考データとして使用する。

②対象者

岡児ヶ水地区の住民：60名

③実施方法

地区の集会等を通じて調査票を配布。各自にヒアリングを行いながら、アンケートを実施。

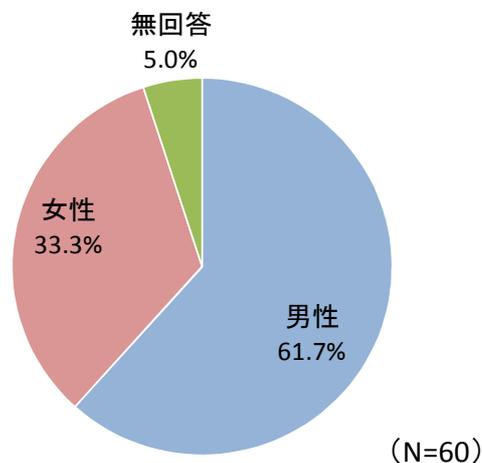
④調査項目

- ・回答者の属性（年齢、性別等）
- ・日常の食料品の購入方法
- ・日常の買物に対する意識
- ・買物支援サービスに対する意向 など

(2) アンケート結果

問1. 性別

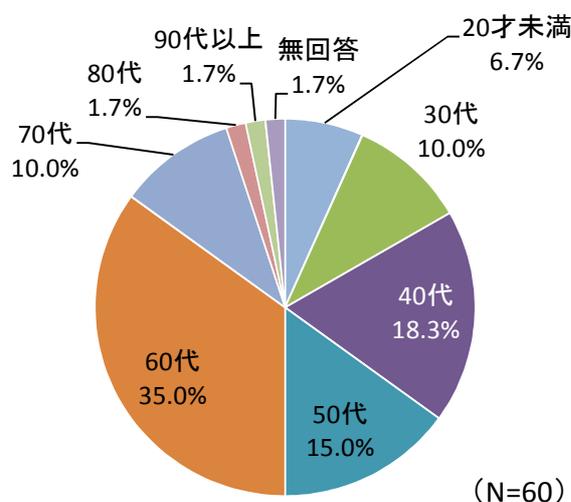
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	男性	37	61.7	64.9
2	女性	20	33.3	35.1
	無回答	3	5.0	
	N (%ベース)	60	100	57



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

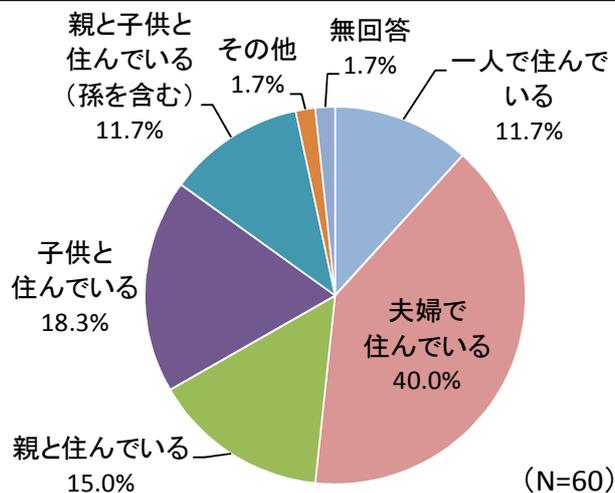
問2. 年代

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	20才未満	4	6.7	6.8
2	20代	0	0.0	0.0
3	30代	6	10.0	10.2
4	40代	11	18.3	18.6
5	50代	9	15.0	15.3
6	60代	21	35.0	35.6
7	70代	6	10.0	10.2
8	80代	1	1.7	1.7
9	90代以上	1	1.7	1.7
	無回答	1	1.7	1.7
	N (%ベース)	60	100	59



問3. 世帯状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	一人で住んでいる	7	11.7	11.9
2	夫婦で住んでいる	24	40.0	40.7
3	親と住んでいる	9	15.0	15.3
4	子供と住んでいる	11	18.3	18.6
5	親と子供と住んでいる(孫を含む)	7	11.7	11.9
6	その他	1	1.7	1.7
	無回答	1	1.7	1.7
	N (%ベース)	60	100	59



第三章 各地の状況（1. 指宿市）

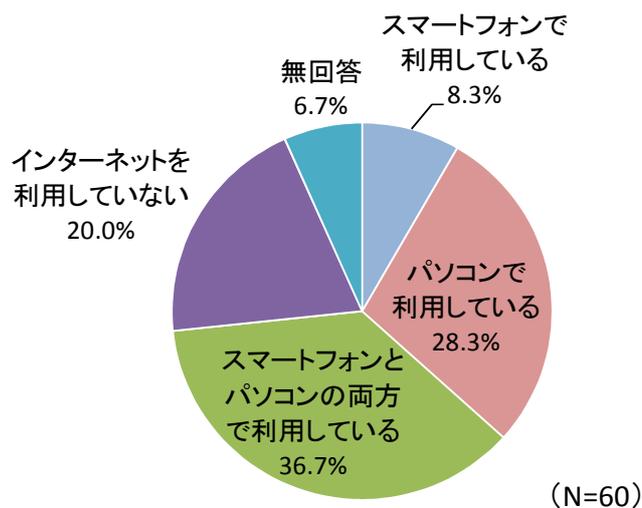
問6-2. 日常の食料品の購入方法（詳細）

自分で移動して購入							
カテゴリ	① 徒歩や自転車で自宅周辺の小売店舗で購入している。	② 自家用車（または親族の車）を使用して、購入している	③ 公共交通機関（バス等）を利用して、購入している	④ タクシー（共同利用含む）を利用して、購入している	⑤ 病院などへの送迎サービスを利用して、購入している		
利用回数				該当なし	該当なし		
利用回数平均（週あたり）	3.7回	3.23回	3回				
利用料金平均（月額あたり）	—	—	—				
自宅への配達							
カテゴリ	⑥ 家族や親戚が購入し、自宅まで運んでもらう	⑦ 配食サービスを利用して、自宅まで運んでもらう	⑧ 買物を代行してくれるサービスを利用している	⑨ 共同で購入して、共同の配達サービスを利用している	⑩ インターネットなどを使用し、個別に購入して、個別の配達サービスを利用している	⑪ 店頭で購入した商品を自宅まで運んでもらう	⑫ 自宅近くに来る移動販売を利用している
利用回数	該当なし	該当なし	該当なし			該当なし	該当なし
利用回数平均（週あたり）				1.65回	1.05回		
利用料金平均（月額あたり）				—	1,000円		

第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

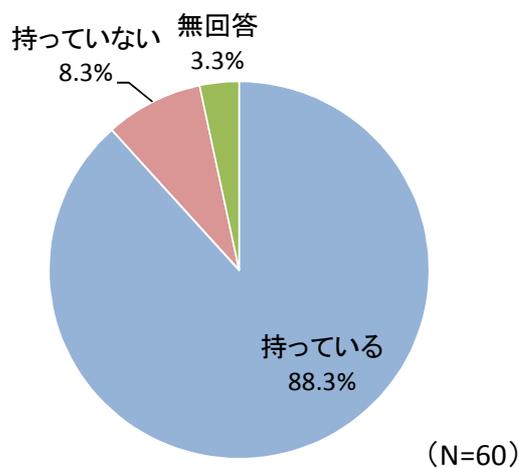
問4. インターネットの利用状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	スマートフォンで利用している	5	8.3	8.9
2	パソコンで利用している	17	28.3	30.4
3	スマートフォンとパソコンの両方で利用している	22	36.7	39.3
4	インターネットを利用していない	12	20.0	21.4
	無回答	4	6.7	
	N (%ベース)	60	100	56



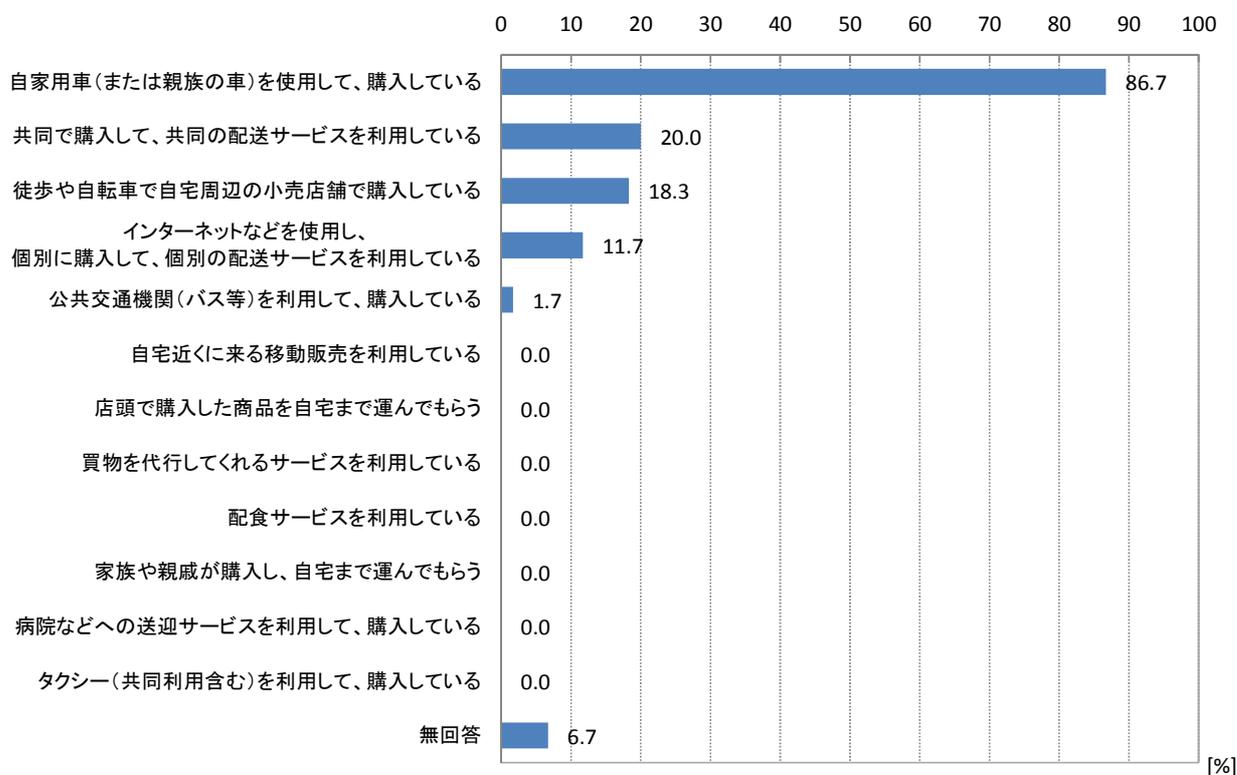
問5. 自家用車の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	持っている	53	88.3	91.4
2	持っていない	5	8.3	8.6
	無回答	2	3.3	
	N (%ベース)	60	100	58



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

問6-1. 日常の食料品の購入方法

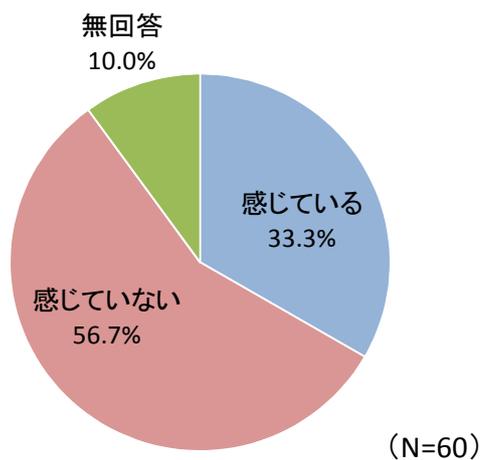


(N=60)

第三章 各地の状況（1. 指宿市）

問7. 日常の買物に関する『不便さ』について

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答を除く)%
1	感じている	20	33.3	37.0
2	感じていない	34	56.7	63.0
	無回答	6	10.0	
	N (%ベース)	60	100	54



第Ⅲ章 各地の状況（1. 指宿市）

問8. 『不便さ』に対する自由意見

<買う場所がない>

-	-	近くに店がない。
女性	20才未満	地区にコンビニが無い。
女性	20才未満	歩いていける場所にコンビニなどの店が無い。
女性	20才未満	(閉店が)早い。
女性	20才未満	田舎なので、大きな店が無い。わざわざ車を出して、買い物にいかないといけない。
男性	30代	遠い。
女性	30代	営業時間が短い(閉店が早い)。
男性	40代	欲しいものが近くにない。
男性	40代	近くに店が無い。
男性	40代	近場にスーパーが無い。
女性	40代	大型店舗などが自家用車で5分という距離にない。
男性	50代	近くにない。
男性	50代	集落内にない。
女性	50代	店が遠い。
男性	60代	隣の村または指宿市まで車で出かけないとすまない。
男性	60代	近場になく車が必要。
男性	60代	店が無い。
男性	70代	指宿市内へ出かける。

<買う手段がない>

女性	20才未満	お母さんが仕事だから。
男性	70代	自動車(がない)。

<買う物(品揃え)がない>

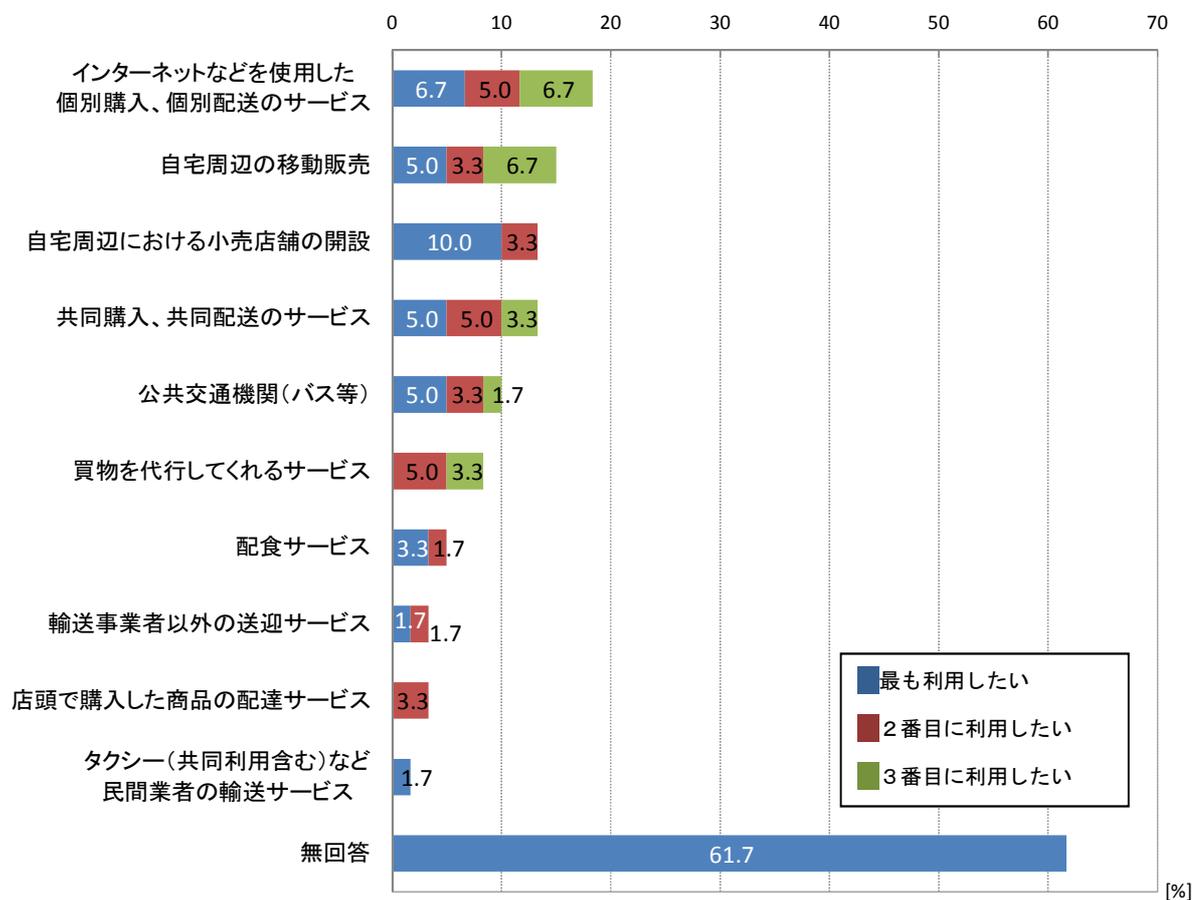
-	-	品揃えが無い。
女性	30代	取扱の種類が少ない。
男性	40代	目的の物が無い。
男性	50代	買う物がない
男性	70代	野菜、肉。

<上記を解決するサービスがない>

意見なし

第三章 各地の状況（1. 指宿市）

問9. 日常の買物について、利用したいサービス



(N=60)

第Ⅲ章 各地域の状況（1. 指宿市）

4 岡児ケ水地区の課題及び対策の検討

（1）課題

調査結果からみえてきた岡児ケ水地区における課題として、以下が挙げられる。

<地域の状況>

- 人口減少・高齢化が進んでおり、高齢化率は47.7%と約半数が高齢者である。
- 買物施設は少なく、生鮮食料品を徒歩や自転車で買いに行ける住民は少ない。
- 路線バスやコミュニティバスは運行しているが、利用率は低い。

<消費行動、消費者ニーズ（アンケート結果）> ※回答者の50%以上が60代以上

- 日常の買物について、「不便さ」を感じているのは33.3%
- 不便の理由としては、「集落内に店がない」、「近場にスーパーがなく車が必要」、「欲しいものが近くの店舗では揃わない（品揃えが少ない）」等が挙げられている。
- 回答者の8割以上が買物の際に「自家用車（または親族の車）を使用している」一方で、「公共交通機関（バス等）を利用している」は1.7%と非常に少ない。
- 日常の買物の際に最も利用したいサービスとしては「自宅周辺における小売店舗の開設」等が挙げられている。

（2）総合計画における買物弱者対策の方向性 ※12頁再掲

「第二次指宿市総合振興計画」では、施策の方向性として以下を掲げている。

- ◆人口減少が進む中、ヒトやモノ、サービスの循環を図ることで、住民生活を支える新たな地域運営の仕組み（集落生活圏の維持）づくりを推進する。
- ◆市内循環バスについては、利用促進を図るとともに、効率的な運行に努める。

（3）岡児ケ水地区における買物弱者対策の検討

上記より、岡児ケ水地区における買物弱者対策として、以下が想定される。

- 地域住民が中心となり、コミュニティ活動等において、高齢者の買物を支援するなど、地域力による買物の場をつくる取組みを実施する。
- コミュニティバスを中心に、地区内の公共交通体系を見直し、買物の際に利用しやすくすることで、住民の生活利便性の向上を図るとともに、バスの利用促進による公共交通の維持、確保を図る。

第Ⅲ章 各地域の状況（1. 指宿市）

岡児ヶ水地区における買物弱者対策の検討フロー

課題Ⅰ：地域の状況

- ・人口減少・高齢化が進んでおり高齢化率は47.7%
- ・買物施設は少なく、生鮮食料品を徒歩や自転車で買いに行ける住民は少ない
- ・路線バスやコミュニティバスは運行しているが、利用率は低い

課題Ⅱ：アンケート結果 消費行動、消費者ニーズ

- ・「不便さ」を感じている人は1/3
- ・8割以上が買物に自家用車（または親族の車）を使用
- ・公共交通機関（バス等）を利用は1.7%
- ・日常の買物の際に最も利用したいサービスは「自宅周辺における小売店舗の開設」等

「第二次指宿市総合振興計画」の方向性

- ・住民生活を支える新たな地域運営の仕組み（集落生活圏の維持）づくりを推進する。
- ・市内循環バスについては、利用促進を図るとともに、効率的な運行に努める。

想定される買物弱者対策

- ・地域住民が中心となり、コミュニティ活動等において、高齢者の買物を支援するなど、地域力による買物の場をつくる取組みを実施する。
- ・コミュニティバスを中心に、地区内の公共交通体系を見直し、買物の際に利用しやすくすることで、住民の生活利便性の向上を図るとともに、バスの利用促進による公共交通の維持、確保を図る。

第三章 各地の状況（2. 垂水市）

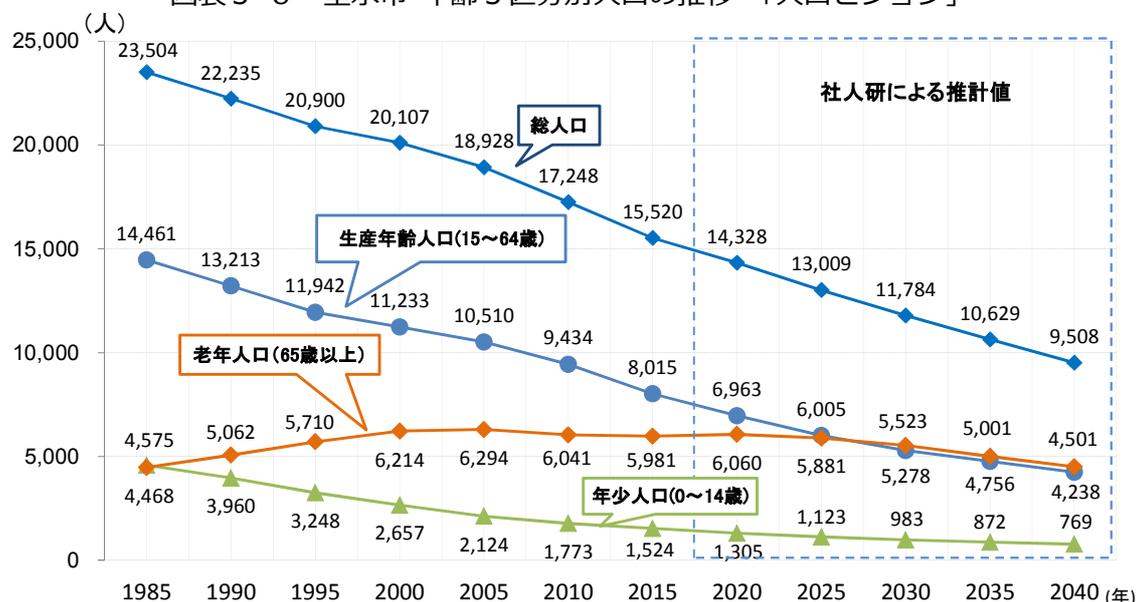
1 垂水市の状況

（1）人口・年齢構成

垂水市の総人口は、減少傾向にあり、2015年の国勢調査では1.5万人となっている。社人研の試算では、今後も減少すると推計されており、2040年には9.5千人と、1985年の2.3万人から半減するとされている。

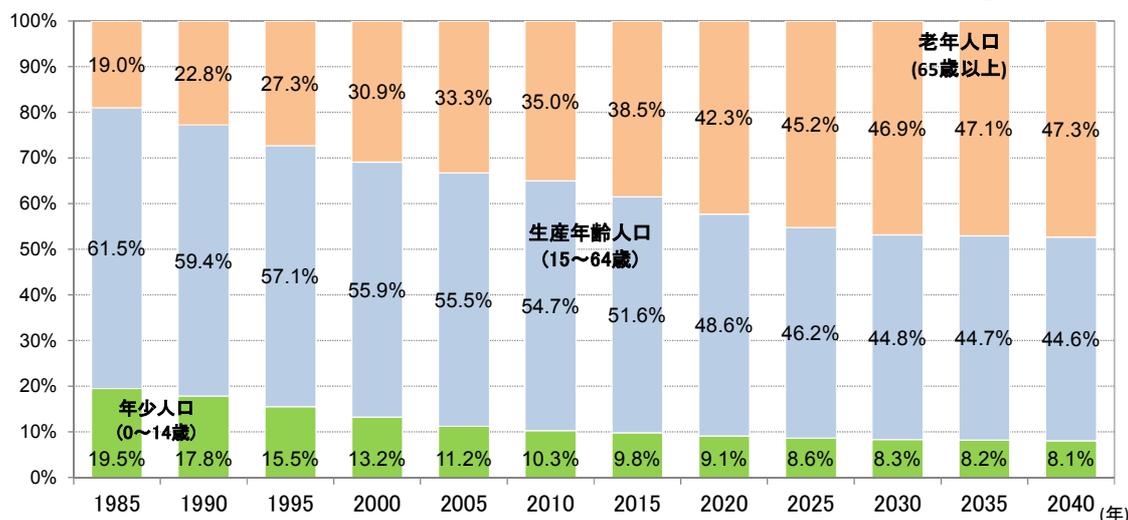
65歳以上の高齢人口は、2000年の6.2千人から2020年の6.0千人まではほぼ横這であるが、その後は逡減していくと推計されている。一方、老年人口の割合（高齢化率）は増加傾向にあり、2020年以降は、総人口の4割を超えると推計されている。

図表3-8 垂水市 年齢3区分別人口の推移 「人口ビジョン」



資料) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（以降同様）

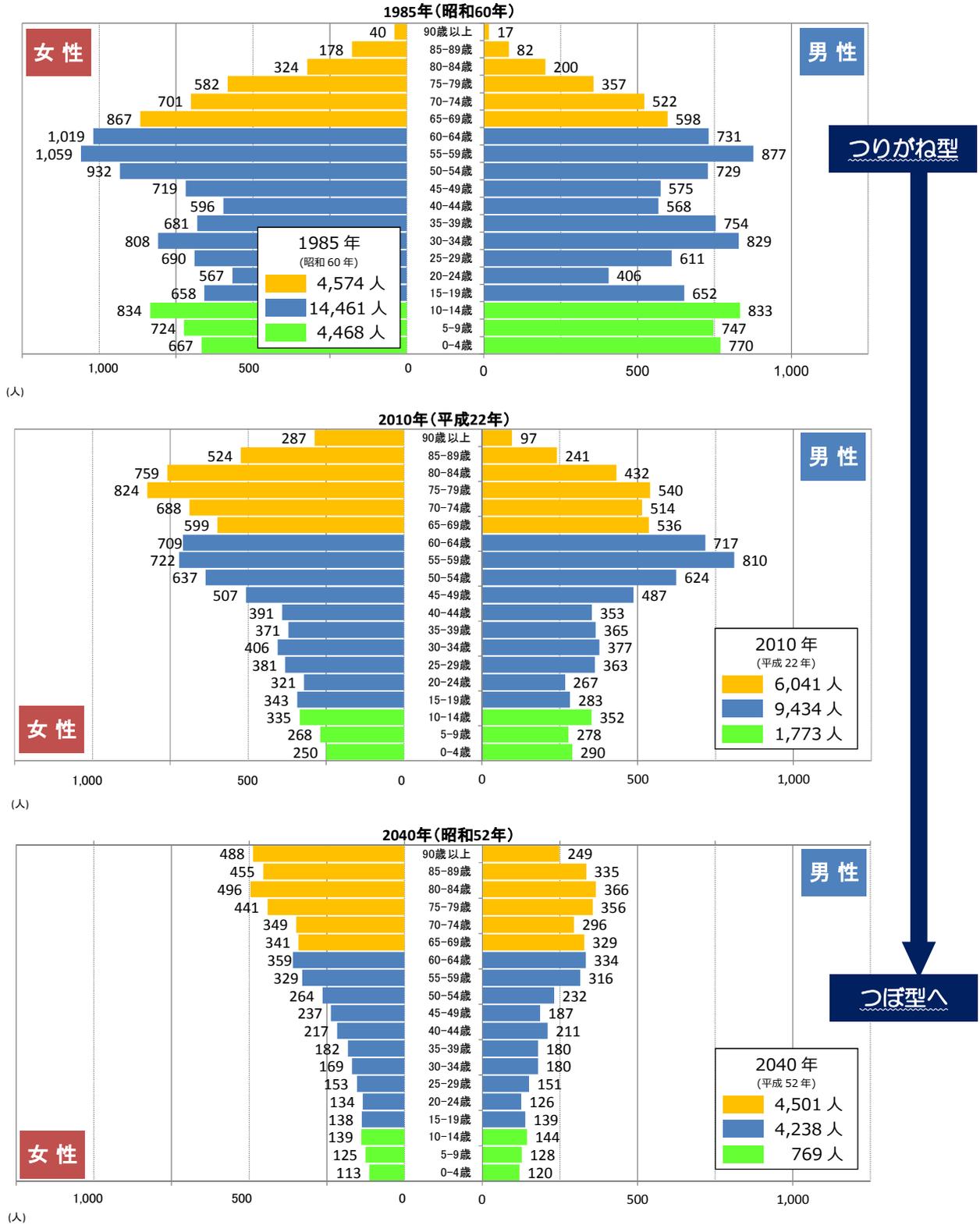
図表3-9 垂水市 年齢3区分別人口割合の推移 「人口ビジョン」



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

図表3-10 垂水市 人口ピラミッドの推移 「人口ビジョン」

■ 老年人口 ■ 生産年齢人口 ■ 年少人口



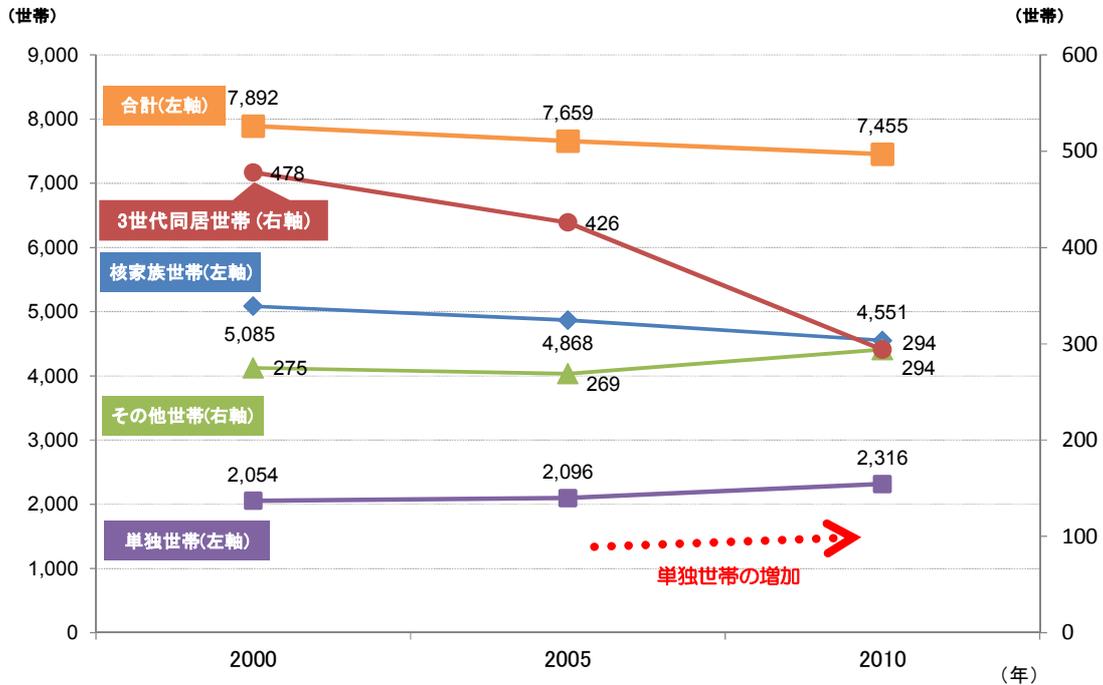
第三章 各地の状況（2. 垂水市）

（2）世帯の状況

垂水市の世帯数の推移をみると、総世帯数はやや減少している。うち「核家族世帯」、「3世代同居世帯」が減少しているのに対し、世帯人員が一人である「単独世帯」と「その他世帯」が増加している。

「単独世帯」が増加している要因の一つとして、高齢夫婦の世帯で、配偶者と死別後に子どもと同居しないケースが増加し、高齢者の単独世帯が増加していることが考えられる。

図表3-11 垂水市 家族類型別世帯数の推移 「人口ビジョン」



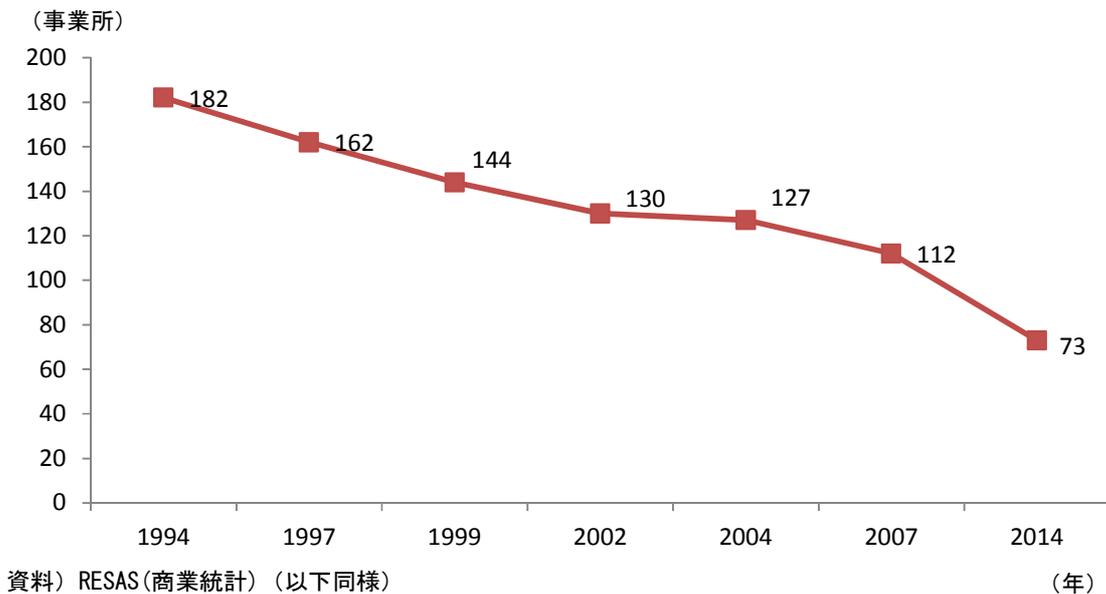
資料) 国勢調査

第三章 各地の状況（2. 垂水市）

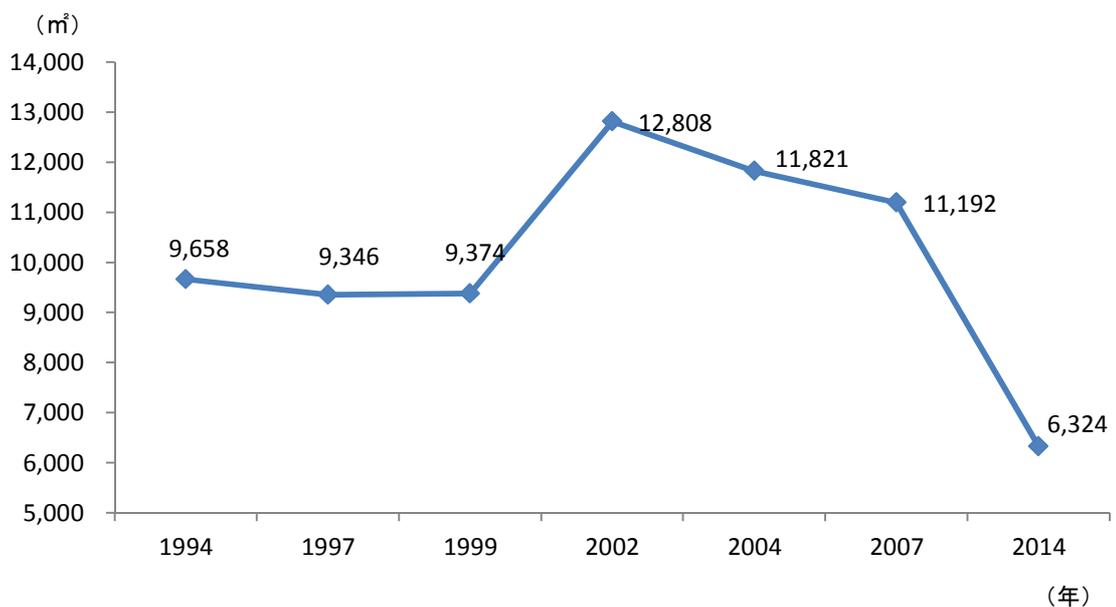
（3）飲食料品小売業の状況

地域経済分析システム（RESAS）を利用し、垂水市の飲食料品小売業の事業所数の推移をみると、1994年以降、減少傾向となっており、2014年は73事業所と1994年の182事業所の半数以下まで減少している。また、売り場面積の推移をみると、2002年の12,808㎡をピークに減少しており、2014年は6,324㎡とピーク時の約半分まで減少している。

図表3-12 垂水市の飲食料品小売業（事業所数）



図表3-13 垂水市の飲食料品小売業（売り場面積）



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

（4）総合計画（買物支援関連施策）

①垂水市の課題

「第4次垂水市総合計画」において、まちづくり及び商工業の課題として

- ◆少子高齢化による地域コミュニティの存続、地域格差が大きいこと。
- ◆地形も南北40kmの海岸線を抱え、生活の利便性に違いが大きいこと。

が挙げられている。

②総合計画における買物弱者対策の方向性

上記の課題に対し「第4次垂水市総合計画」では、まちづくりにおいて

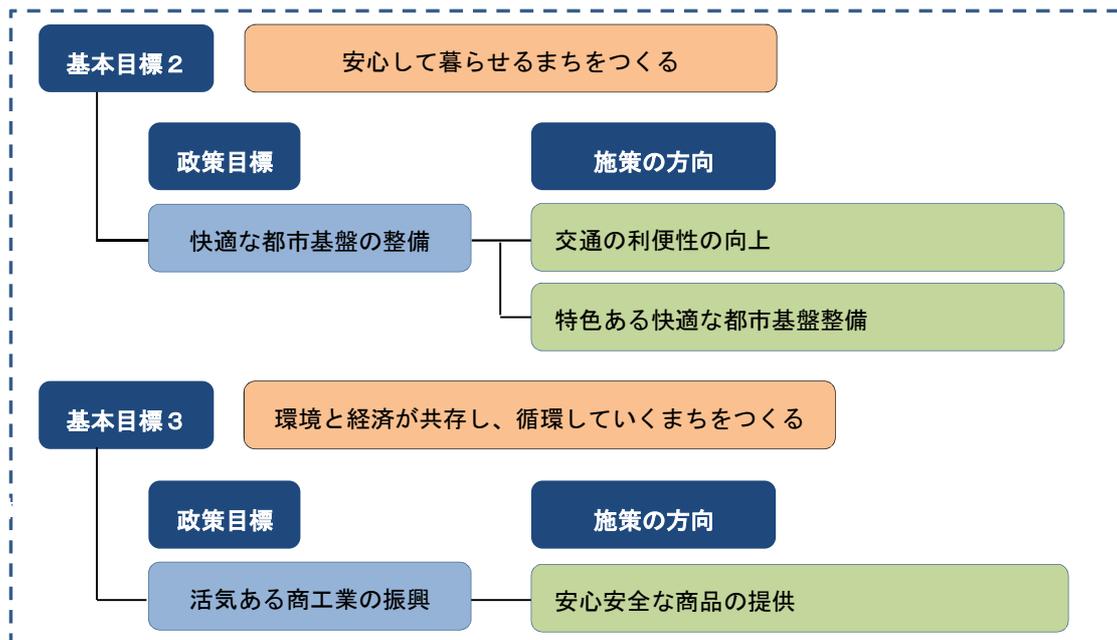
- ◆都市の発展の基本となる道路・交通体系などの基盤整備と市民生活に密着した居住環境の整備を進める。
- ◆地域振興計画等も参考にしながら都市計画マスタープランを策定し、効率的・計画的な都市基盤の整備に努める。

を政策目標の考え方として定めており、また、商工業においては、

- ◆市民の日常的な利便性の確保を図ることを基本に、垂水にあった商業のあり方やサービスを展開する。
- ◆多様化・高度化する消費者ニーズに対応できる商業の育成や振興に取り組む。

を政策目標の考え方として定めている。

【第4次垂水市総合計画の体系】 ※買物支援関連部分を抜粋



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

（5）乗合タクシーの運行（参考事例）

垂水市内においては、市街地と周辺3地区を結ぶ4ルートで乗合タクシーを2009年12月より運行している。

名称：たるみず乗合タクシー

利用対象：だれでも利用可能

運行主体：垂水市地域公共交通活性化協議会

運行日：月曜日～土曜日（日・祝は運休）

運行方法：事前予約制

図3-14 乗合タクシー運行地区

事前予約型 乗合タクシーを運行しています。

* 日曜祝日は運行しません。
電話などで事前に予約する必要があります。



第三章 各地の状況（2. 垂水市）

図3-15 乗合タクシー時刻表

たるみず 乗合タクシー

運賃と時刻表

停留所の時間は、予約の状況で変更になる場合があります。ご注意ください。
日曜祝日は休みです。

◎市木ルート 協和タクシー（32-1900）



停留所	1便(午前)	3便(午後)	運賃
野久妻	8:30	13:30	300円
上市木	8:34	13:34	200円
中市木	8:37	13:37	200円
下市木3区	8:40	13:40	200円
下市木2区	8:42	13:42	200円
下市木1区	8:44	13:44	200円
城山団地	8:48	13:48	200円
中央地区	8:50	13:50	

停留所	2便(午前)	4便(午後)	運賃
中央地区	11:30	16:30	
城山団地	11:36	16:36	200円
下市木1区	11:40	16:40	200円
下市木2区	11:42	16:42	200円
下市木3区	11:44	16:44	200円
中市木	11:47	16:47	200円
上市木	11:50	16:50	200円
野久妻	11:54	16:54	300円

◎大野ルート ハロータクシー（32-8686）



停留所	1便(午前)	3便(午後)	運賃
大野原	7:50	13:30	700円
公民館前	7:52	13:32	700円
垂 桜	7:57	13:37	600円
田地明	8:03	13:43	500円
南方神社前	8:16	13:56	200円
田 上	8:18	13:58	200円
蛸 迫	8:20	14:00	200円
原 田	8:22	14:02	200円
敷根町	8:23	14:03	200円
中央地区	8:25	14:05	

停留所	2便(午前)	4便(午後)	運賃
中央地区	12:30	17:00	
敷根町	12:36	17:06	200円
原 田	12:37	17:07	200円
蛸 迫	12:39	17:09	200円
田 上	12:41	17:11	200円
南方神社前	12:43	17:13	200円
田地明	12:56	17:26	500円
垂 桜	13:02	17:32	600円
公民館前	13:07	17:37	700円
大野原	13:09	17:39	700円

◎内ノ野ルート 南海タクシー（32-0051）



停留所	1便(午前)	3便(午後)	運賃
内ノ野	8:50	13:30	400円
新光寺	8:55	13:35	300円
井 川	8:58	13:38	200円
田 畑	8:59	13:39	200円
上ノ宮	9:00	13:40	200円
上新御堂	9:01	13:41	200円
下新御堂	9:02	13:42	200円
上水之上	9:04	13:44	200円
下水之上	9:06	13:46	200円
追神橋	9:08	13:48	200円
中央地区	9:12	13:52	

停留所	2便(午前)	4便(午後)	運賃
中央地区	11:30	16:30	
追神橋	11:40	16:40	200円
下水之上	11:42	16:42	200円
上水之上	11:44	16:44	200円
下新御堂	11:46	16:46	200円
上新御堂	11:47	16:47	200円
上ノ宮	11:48	16:48	200円
田 畑	11:49	16:49	200円
井 川	11:50	16:50	200円
新光寺	11:53	16:53	300円
内ノ野	11:58	16:58	400円

◎小谷ルート 南海タクシー（32-0051）



停留所	1便(午前)	3便(午後)	運賃
小 谷	8:30	13:30	500円
段	8:32	13:32	400円
上馬込	8:36	13:36	200円
下馬込	8:37	13:37	200円
今川原	8:39	13:39	200円
本高城	8:40	13:40	200円
牧	8:41	13:41	200円
上本城	8:42	13:42	200円
下本城	8:44	13:44	200円
中央地区	8:50	13:50	

停留所	2便(午前)	4便(午後)	運賃
中央地区	11:30	16:30	
下本城	11:36	16:36	200円
上本城	11:38	16:38	200円
牧	11:39	16:39	200円
本高城	11:40	16:40	200円
今川原	11:41	16:41	200円
下馬込	11:43	16:43	200円
上馬込	11:44	16:44	200円
段	11:48	16:48	400円
小 谷	11:50	16:50	500円

2 ^{ふたがわ} 二川地区の状況

（1）二川地区の概要

二川地区は、垂水市の北東部に位置し、二川校区内の集落で構成された中山間地域となっている。地区を横断する形で県道 72 号線が通過し、県道 72 号線と国道 220 号線が交わる牛根小学校周辺には若干の商店が点在するものの、それ以外の地域については主だった買物施設はなく、周辺道路は幅員が狭いため大型車の通行には適していない。

（2）人口・年齢構成 ※2015 年国勢調査時点

人口は 445 人、世帯数は 212 世帯
うち 65 歳以上の高齢人口は 209 人（高齢化率：46.9%）

（3）地域の状況

①生活利便施設の状況

上述のとおり、買物施設は牛根小学校周辺に点在するのみで、今回アンケート調査を実施した「高野・岳野」集落近辺には買物施設が無いことから、8 割近くの住民が自家用車を利用し、最寄りのスーパー等まで出向き、買物を行っている。

一方、アンケート結果では、2 割強の回答者が「自宅近くに来る移動販売車」を利用しているが、価格や鮮度に対する不満が聞かれた。

②公共交通の状況

国道 220 号線については、垂水港と桜島・霧島・鹿児島空港を結ぶ路線バスが運行している。

垂水港→鹿児島空港	平日：9 便	休日：7 便
鹿児島空港→垂水港	平日：9 便	休日：6 便

一方、「高野・岳野」集落方面には公共交通機関が運行していないことから、今後利用したサービスについては、「タクシー（共同利用含む）など民間業者の輸送サービス」が最も多い結果となっている。

③買物支援サービスの状況

民間業者が運行している「移動販売車」があるが、不定期の運行になっている。

④その他（ボランティアグループ）

生活支援を主目的としたボランティアグループは見当たらないものの、地域住民は病院の送迎バス等を利用して買物を済ませることもある。

図 3-16 垂水市二川地区



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

3 二川地区の消費行動、消費者ニーズ（住民へのヒアリングによるアンケート結果）

（1）アンケート実施内容

①目的

地区の住民に対し、ヒアリングによるアンケート調査を実施し、食料品や日用品の主な調達方法等の消費行動や買物支援に対する要望などの消費者ニーズを把握することで、買物弱者対策を検討するうえでの参考データとして使用する。

②対象者

二川地区の住民：13名

③実施方法

地区の集会等を通じて調査票を配布。各自にヒアリングを行いながら、アンケートを実施。

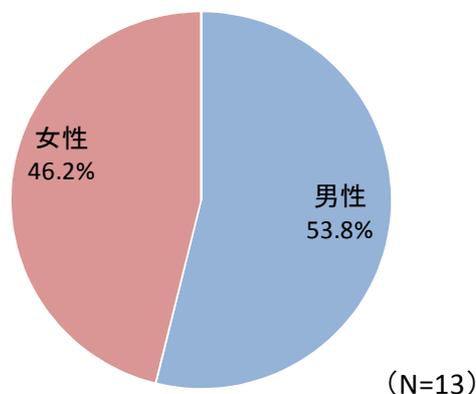
④調査項目

- ・回答者の属性（年齢、性別等）
- ・日常の食料品の購入方法
- ・日常の買物に対する意識
- ・買物支援サービスに対する意向 など

（2）アンケート結果

問1. 性別

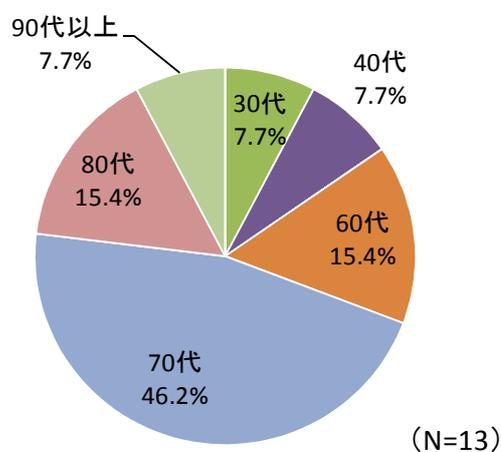
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	男性	7	53.8	53.8
2	女性	6	46.2	46.2
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	13	100	13



第三章 各地の状況（2. 垂水市）

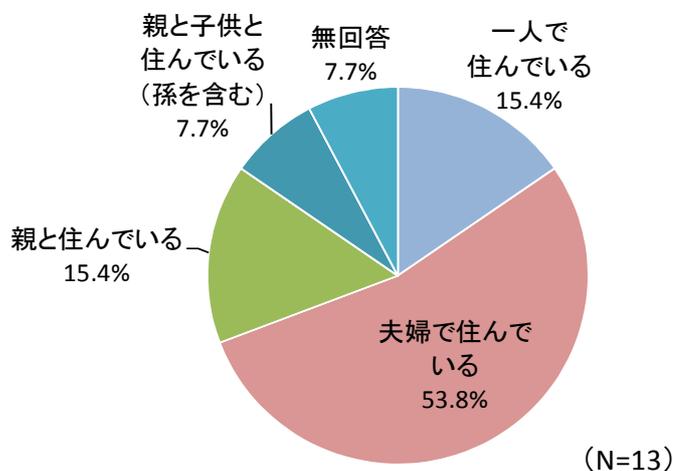
問2. 年代

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	20才未満	0	0.0	0.0
2	20代	0	0.0	0.0
3	30代	1	7.7	7.7
4	40代	1	7.7	7.7
5	50代	0	0.0	0.0
6	60代	2	15.4	15.4
7	70代	6	46.2	46.2
8	80代	2	15.4	15.4
9	90代以上	1	7.7	7.7
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	13	100	13



問3. 世帯状況

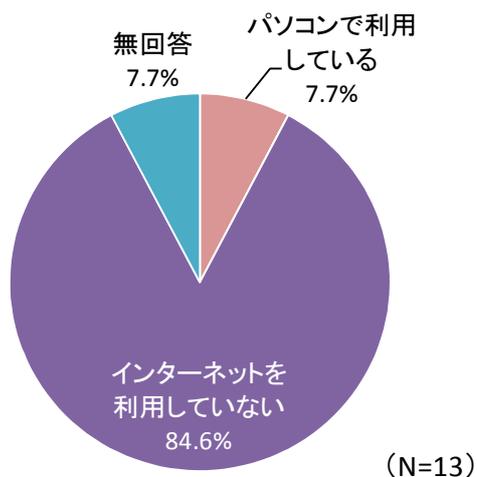
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	一人で住んでいる	2	15.4	16.7
2	夫婦で住んでいる	7	53.8	58.3
3	親と住んでいる	2	15.4	16.7
4	子供と住んでいる	0	0.0	0.0
5	親と子供と住んでいる(孫を含む)	1	7.7	8.3
6	その他	0	0.0	0.0
	無回答	1	7.7	
	N (%ベース)	13	100	12



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

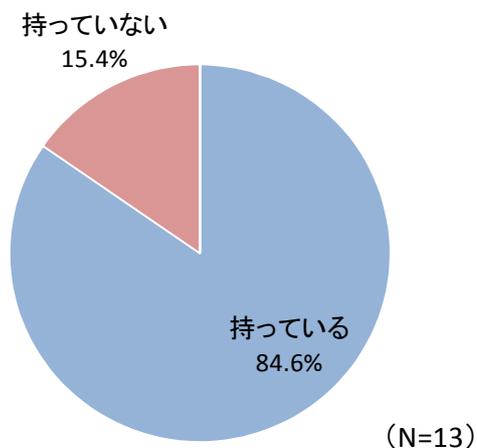
問4. インターネットの利用状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	スマートフォンで利用している	0	0.0	0.0
2	パソコンで利用している	1	7.7	8.3
3	スマートフォンとパソコンの両方で利用している	0	0.0	0.0
4	インターネットを利用していない	11	84.6	91.7
	無回答	1	7.7	
	N (%ベース)	13	100	12



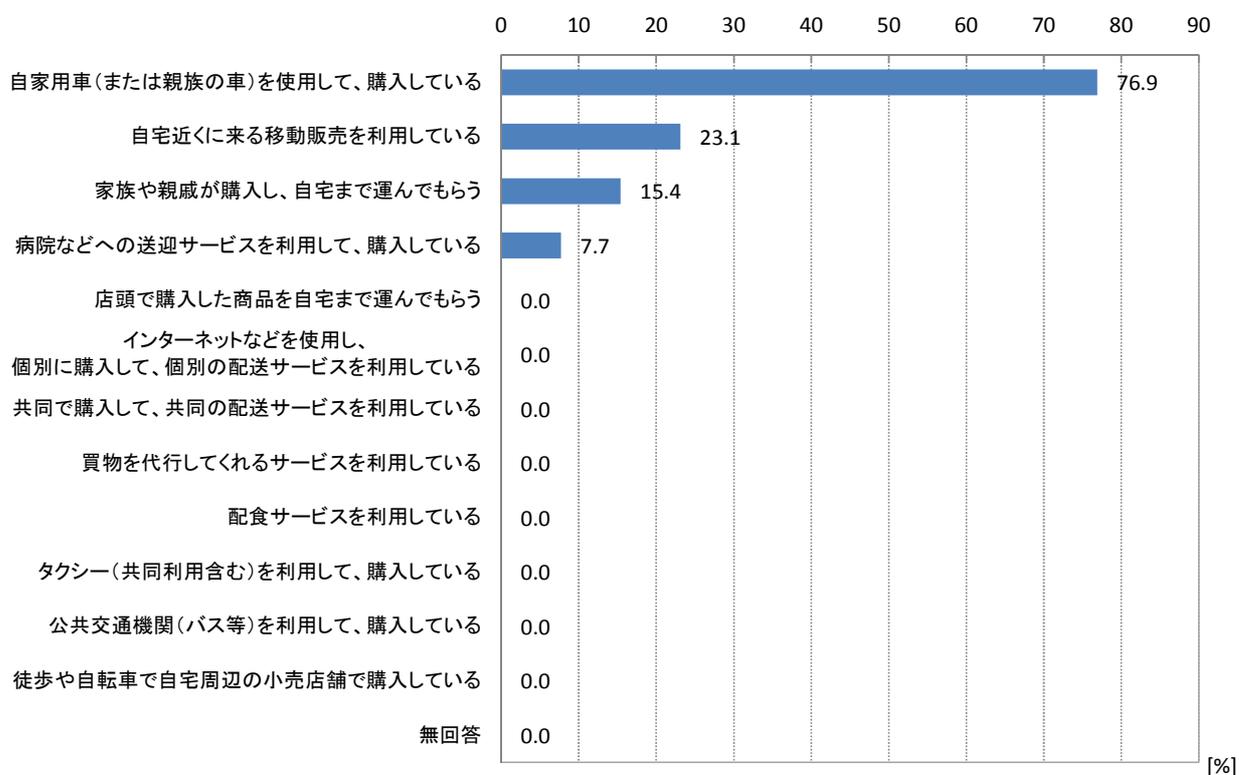
問5. 自家用車の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	持っている	11	84.6	84.6
2	持っていない	2	15.4	15.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	13	100	13



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

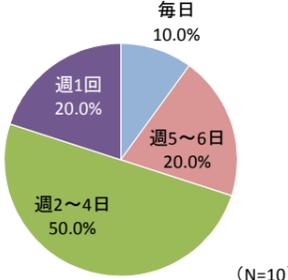
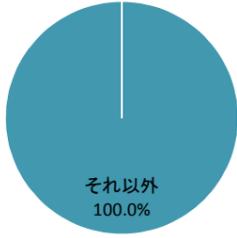
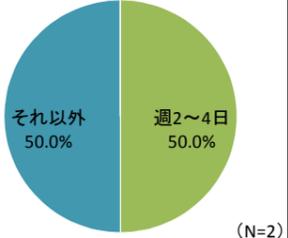
問6-1. 日常の食料品の購入方法



(N=13)

第三章 各地の状況（2. 垂水市）

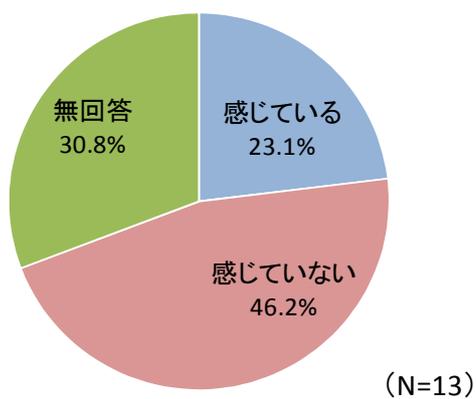
問6-2. 日常の食料品の購入方法（詳細）

自分で移動して購入							
カテゴリ	①徒歩や自転車で自宅周辺の小売店舗で購入している。	②自家用車（または親族の車）を使用して、購入している	③公共交通機関（バス等）を利用して、購入している	④タクシー（共同利用含む）を利用して、購入している	⑤病院などへの送迎サービスを利用して、購入している		
利用回数	該当なし		該当なし	該当なし			
利用回数平均（週あたり）		3.5回			0.25回		
利用料金平均（月額あたり）		—			—		
自宅への配達							
カテゴリ	⑥家族や親戚が購入し、自宅まで運んでもらう	⑦配食サービスを利用している	⑧買物を代行してくれるサービスを利用している	⑨共同で購入して、共同の配送サービスを利用している	⑩インターネットなどを使用し、個別に購入して、個別の配送サービスを利用している	⑪店頭で購入した商品を自宅まで運んでもらう	⑫自宅近くに来る移動販売を利用している
利用回数		該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
利用回数平均（週あたり）	1.63回						3回
利用料金平均（月額あたり）	—						—

第三章 各地の状況（2. 垂水市）

問7. 日常の買物に関する『不便さ』について

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	感じている	3	23.1	33.3
2	感じていない	6	46.2	66.7
	無回答	4	30.8	
	N (%ベース)	13	100	9



第Ⅲ章 各地の状況（2. 垂水市）

問8. 『不便さ』に対する自由意見

<買う場所がない>

意見なし

<買う手段がない>

男性	40代	(買う場所までの)距離が長い(50分~1時間)。
女性	70代	車がないと不便。
女性	70代	車がないと不便。

<買う物(品揃え)がない>

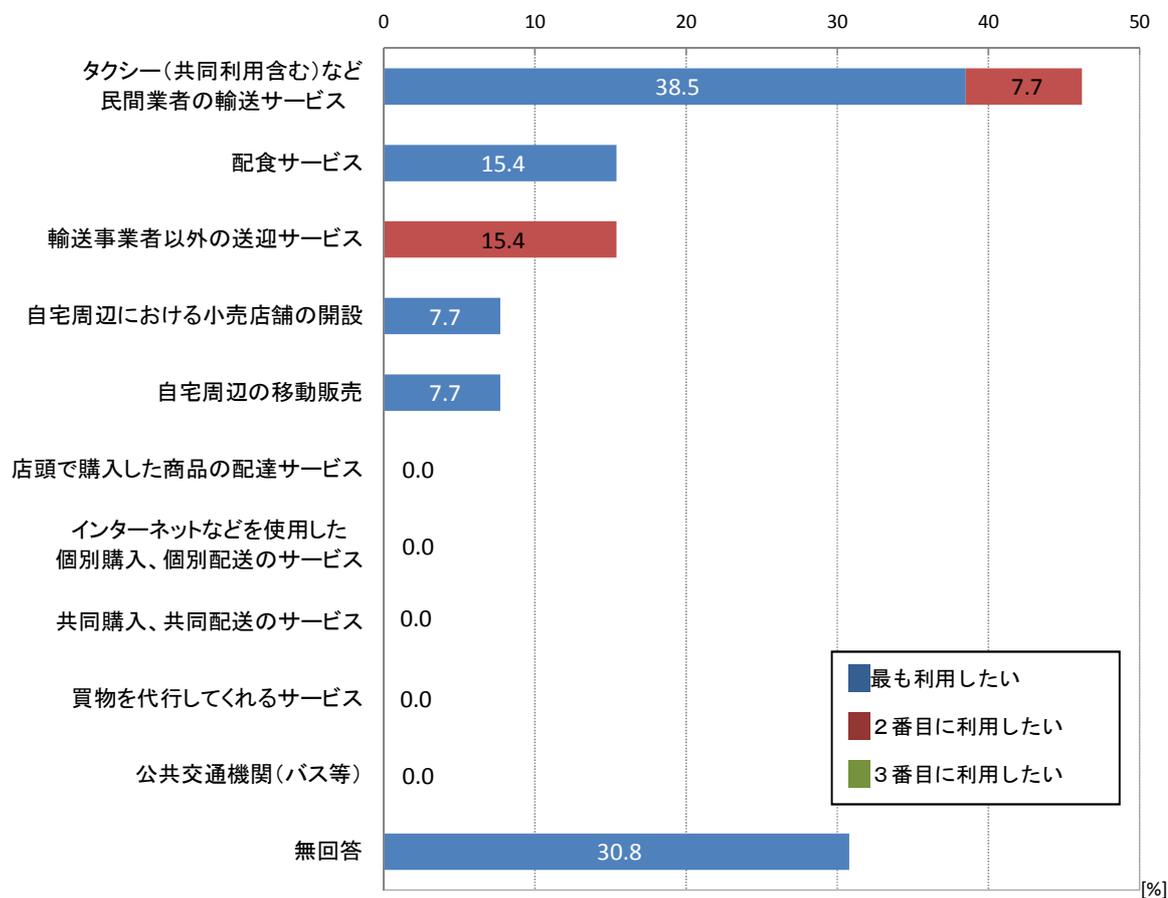
男性	40代	移動販売は値段が高い。傷みが早い。
----	-----	-------------------

<上記を解決するサービスがない>

意見なし

第三章 各地の状況（2. 垂水市）

問9. 日常の買物について、利用したいサービス



(N=13)

第Ⅲ章 各地域の状況（2. 垂水市）

4 二川地区の課題及び対策の検討

（1）課題

調査結果からみえてきた二川地区における課題として、以下が挙げられる。

<地域の状況>

- 人口減少・高齢化が進んでおり、高齢化率は46.9%と約半数が高齢者である。
- 買物施設は、個人商店があるのみで数は少ない。
- 国道沿いに路線バスは運行しているが、地区内にコミュニティバス等の公共交通は運行していない。
- 民間事業者が運行している「移動販売車」があるものの、不定期である。

<消費行動、消費者ニーズ（アンケート結果）> ※回答者の84.7%が60代以上

- 日常の買物について、現時点で「不便さ」を感じている方は23.1%と少ないが、「車がないと不便」との意見がある。
- 日常の買物の際に利用したいサービスについて、「タクシー（共同利用含む）など民間業者の輸送サービス」が最も多く、回答者の46.2%が挙げている。また、「配食サービス」と「輸送事業者以外の送迎サービス」が15.4%と2番目に多くなっている。

（2）総合計画における買物弱者対策の方向性 ※28頁再掲

「第4次垂水市総合計画」では、施策の方向性として以下を掲げている。

- ◆都市の発展の基本となる道路・交通体系などの基盤整備と市民生活に密着した居住環境の整備を進める。
- ◆市民の日常的な利便性の確保を図ることを基本に、垂水にあった商業のあり方やサービスを展開する。

（3）二川地区における買物弱者対策の検討

上記より、二川地区における買物弱者対策として、以下が想定される。

- 乗合タクシーを中心に、地区内の公共交通体系を見直し、買物の際に出かけやすくすることで、住民の生活利便性の向上を図る。
- 市街地の買物施設や医療施設等との連携向上により、商品の配送等が可能となる環境づくりを促す。

第Ⅲ章 各地域の状況（2. 垂水市）

二川地区における買物弱者対策の検討フロー

課題Ⅰ：地域の状況

- ・人口減少・高齢化が進んでおり高齢化率は46.9%
- ・買物施設の数はい少ない
- ・地区内にコミュニティバス等は運行していない
- ・移動販売車が不定期で運行している

課題Ⅱ：アンケート結果 消費行動、消費者ニーズ

- ・「不便さ」を感じている人は少ないが、自家用車があることが前提
- ・日常の買物の際に利用したいサービスは、「タクシーなどの民間輸送サービス」が多く、次いで「配食サービス」「輸送事業者以外の送迎サービス」が挙げられている

「第4次垂水市総合計画」の方向性

- ・都市の発展の基本となる道路・交通体系などの基盤整備と市民生活に密着した居住環境の整備を進める。
- ・市民の日常的な利便性の確保を図ることを基本に、垂水にあった商業のあり方やサービスを展開する。

想定される買物弱者対策

- ・乗合タクシーを中心に、地区内の公共交通体系を見直し、買物の際に出かけやすくすることで、住民の生活利便性の向上を図る。
- ・市街地の買物施設や医療施設等との連携向上により、商品の配送等が可能となる環境を促す。

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

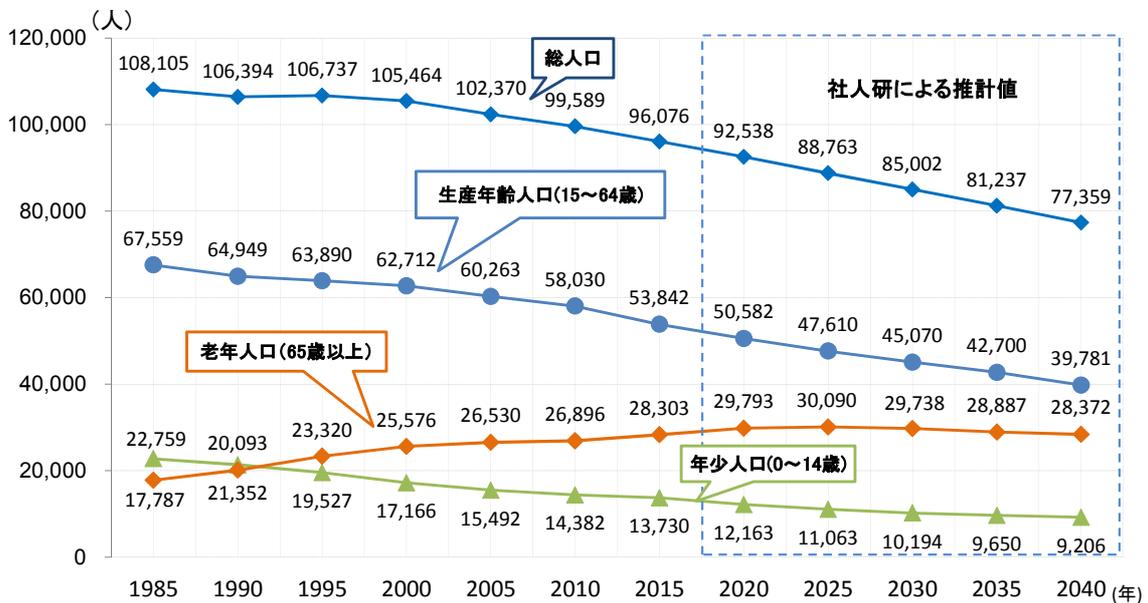
1 薩摩川内市の状況

（1）人口・年齢構成

薩摩川内市の総人口は、減少傾向にあり、2015年の国勢調査では9.6万人となっている。社人研の試算では、今後も減少すると推計されており、2040年には7.7万人と、1985年の10.8万人の約3分の2になるとされている。

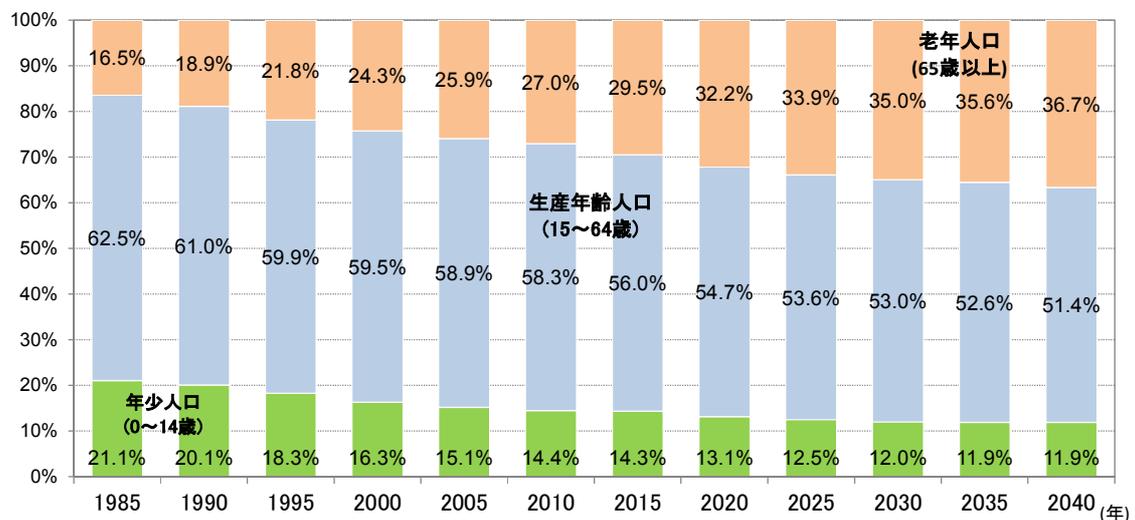
65歳以上の高齢人口は、社人研の試算では、2025年の3.0万人までは増加し、その後は逡減していくと推計されている。一方、老年人口の割合（高齢化率）は増加傾向にあり、2020年以降は、総人口の3割を超えると推計されている。

図表3-17 薩摩川内市 年齢3区分別人口の推移 「人口ビジョン」



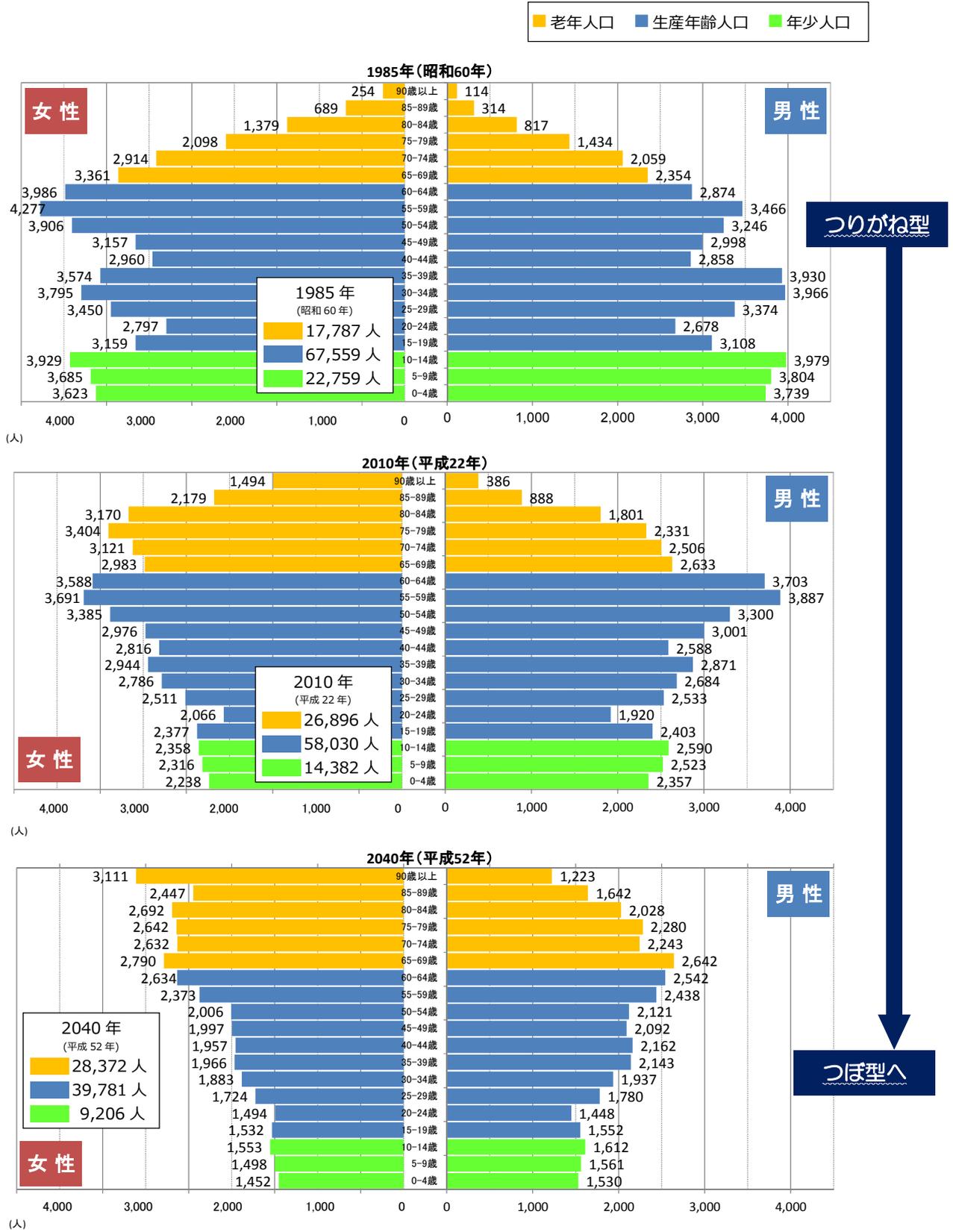
資料) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（以降同様）

図表3-18 薩摩川内市 年齢3区分別人口割合の推移 「人口ビジョン」



第Ⅲ章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

図表 3-19 薩摩川内市 人口ピラミッドの推移 「人口ビジョン」



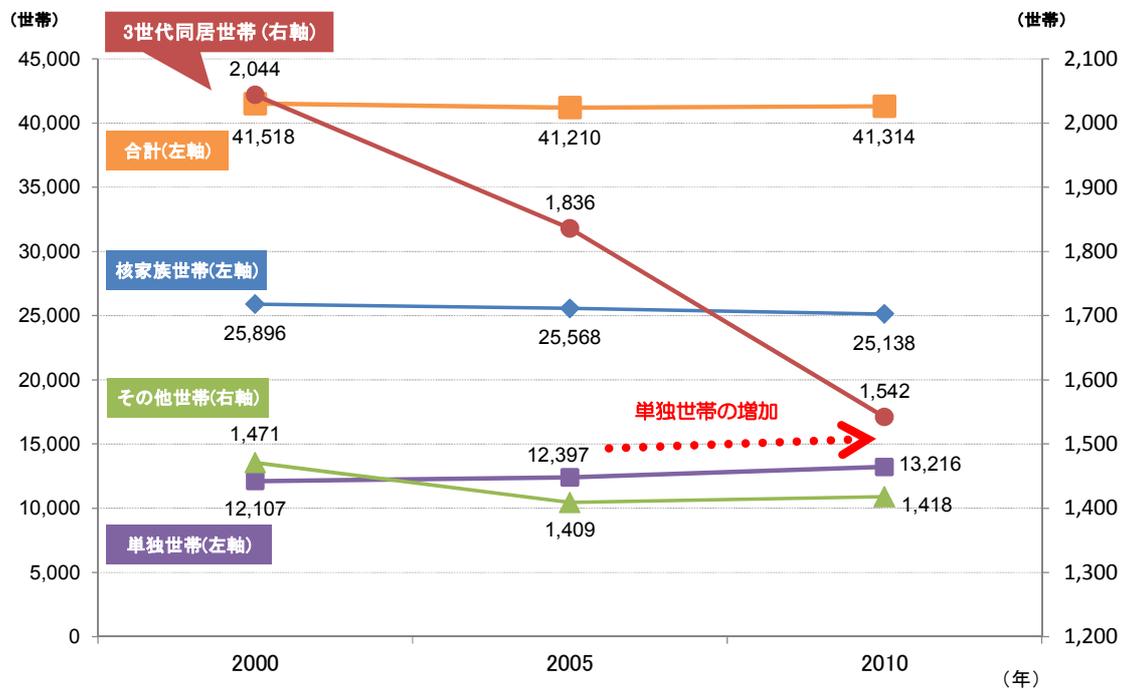
第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

（2）世帯の状況

薩摩川内市の世帯数の推移をみると、総世帯数はほぼ横這で推移している。しかし、「3世代同居世帯」は減少しており、世帯人員が一人である「単独世帯」が増加している。

「単独世帯」が増加している要因の一つとして、高齢夫婦の世帯で、配偶者と死別後に子どもと同居しないケースが増加し、高齢者の単独世帯が増加していることが考えられる。

図表3-20 薩摩川内市 家族類型別世帯数の推移 「人口ビジョン」



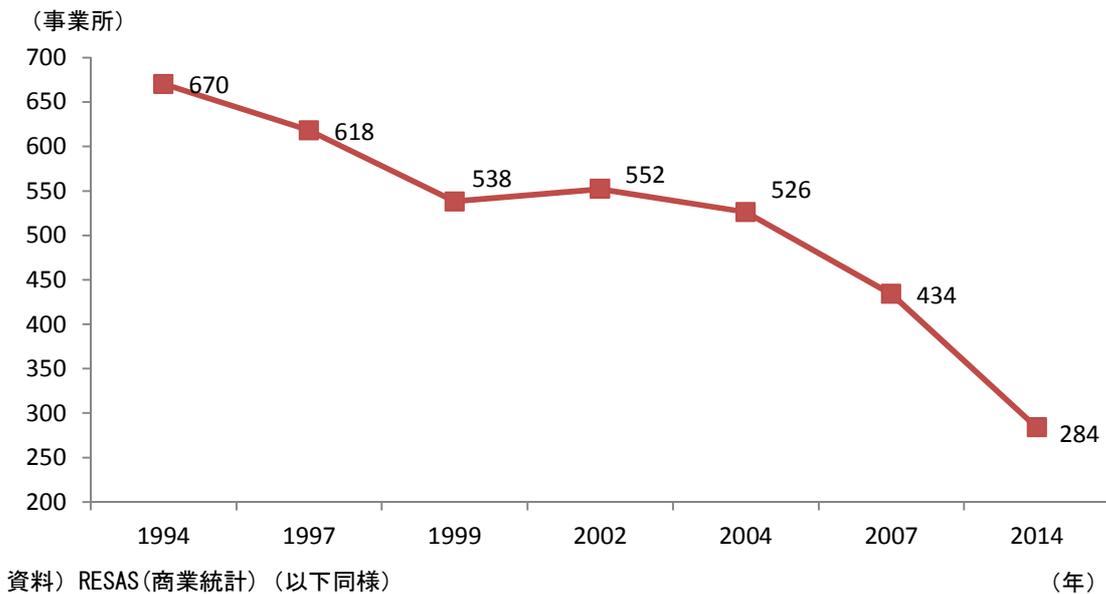
資料) 国勢調査

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

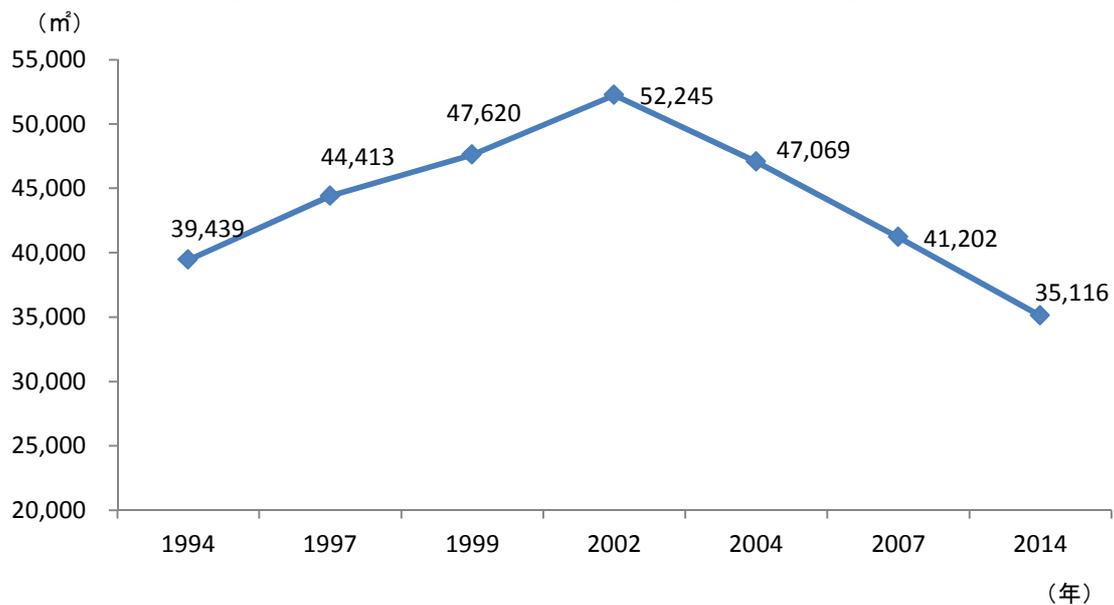
（3）飲食料品小売業の状況

地域経済分析システム（RESAS）を利用し、薩摩川内市の飲食料品小売業の事業所数の推移をみると、1994年以降、減少傾向となっており、2014年は284事業所と1994年の670事業所の4割近くにまで減少している。また、売り場面積の推移をみると、2002年の52,245㎡をピークに減少傾向となっており、2014年は35,116㎡とピーク時の7割弱にまで減少している。

図表3-21 薩摩川内市の飲食料品小売業（事業所数）



図表3-22 薩摩川内市の飲食料品小売業（売り場面積）



第Ⅲ章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

（4）総合計画（買物支援関連施策）

①薩摩川内市の課題

「第2次薩摩川内市総合計画」において、まちづくり及び住民自治の課題として

- ◆中心市街地では、店舗等の撤退などにより空き家、空き地等の発生が顕著である一方、中心市街地の周辺部では、商業店舗等が進出しているため、バランスのとれた住環境を確保していくことが求められている。
- ◆地域の課題を解決し、地域が自立し活性化していくために、地域資源を活用したコミュニティビジネスの展開を拡大していく必要がある。
また、身近な生活における課題解決のために自治会の果たす役割はますます重要となることから、市民の自治意識の向上を図る必要がある。

が挙げられている。

②総合計画における買物弱者対策の方向性

上記の課題に対し「第2次薩摩川内市総合計画」では、まちづくりにおいて

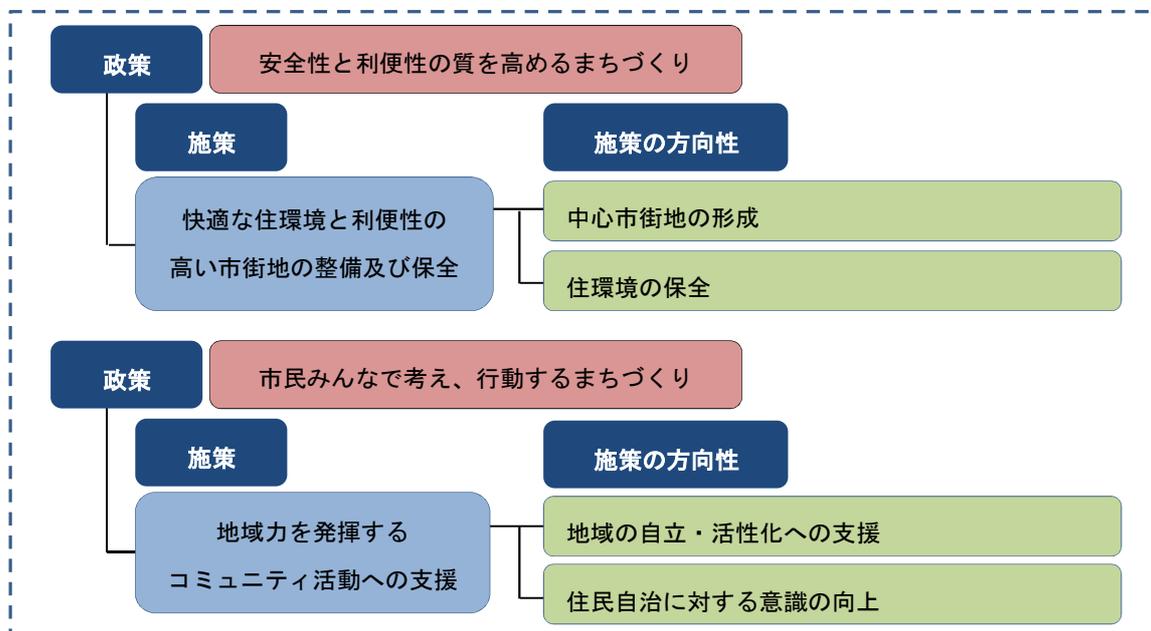
- ◆民間活力による土地活用や商業機能の集積等を促し中心市街地の活性化を図るため、利便性の高いコンパクトな市街地形成を図る。
- ◆それぞれの地域との連携を図りながら、市民ニーズに対応し、安心して快適な生活ができる都市基盤の整備を進める。

を施策の方向性として定めており、また、住民自治においては、

- ◆自ら課題解決できる地域の自立を促すため、地域の特色ある活動やコミュニティビジネスの展開と定着化を図る。
- ◆地域の活性化のため、住民自治に対する意識の向上を図る。

を施策の方向性として定めている。

【第2次薩摩川内市総合計画の体系】 ※買物支援関連部分を抜粋



第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

（5）買物不便地域支援モデル事業（参考事例）

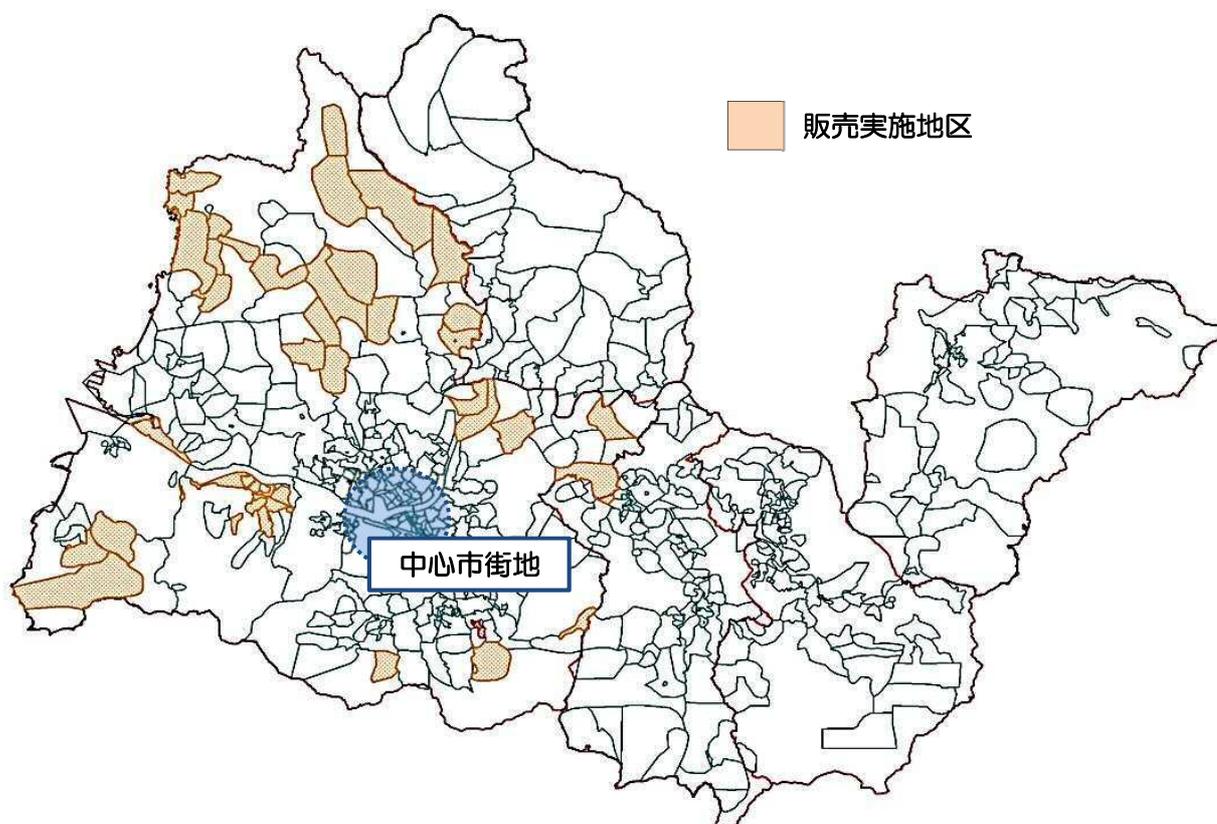
薩摩川内市内において、生活協同組合コープかごしまが運営する移動販売車が運行している。

写真3-23 コープ号

名称：生協の移動店舗「コープ号」
内容：車両による日用品の移動販売
運営主体：生活協同組合コープかごしま
運行地域：47自治会
販売場所は77箇所
運行形態：金曜日と日曜日を除く毎日
各販売場所に10分間滞在し、巡回していく



図3-24 販売実施地区（参考）



第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

図3-25 2016年度 薩摩川内市移動店舗運行スケジュール①

平成28年6月から

曜日	地区	自治会	時間	場所	
月	平佐東	飯母	10:00~10:10	飯母バス停左折十文字	
			10:15~10:25	集会所近く	
			10:30~10:40	岡元橋付近	
		長野	10:45~10:55	長野自治会館前	
		楠元上	11:00~11:10	楠元上公民館	
	吉川	吉川			平原山
			11:30~11:40	小水流地区	
		下之段	11:45~11:55	吉川バス停付近	
		宇都川路	12:00~12:10	太陽光パネル近く川沿い	
			12:15~12:25	廣瀬会長宅庭	
		下之段	12:30~12:40	枇杷文子宅前	
			12:45~12:55	高桑さん宅前	
	13:00~13:10		市営戸川住宅		
	隈之城	柿田	14:30~14:40	柿田ポンプ前バス停	
			14:45~14:55	柿田公民館入り口	
			15:00~15:10	野平三文字	
	永利	上野	15:20~15:30	上野自治会館前	
				山口宅近く空き地	
浦田			浦田自治会館上広場		
		15:40~15:50	谷山宅前		
山中		16:00~16:10	山中三文字リサイクル集積場		
火	峰山	諏訪山	10:00~10:10	園田宅前空き地	
			10:15~10:25	諏訪山自治会館	
		白浜	10:30~10:40	白浜自治公民館	
		内場・麓	10:45~10:55	峰山コミセン広場	
		峰下	11:00~11:10	山崎宅付近	
水	峰山	平城	10:15~10:25	城ノ下バス停付近	
			10:35~10:45	平牟田自治会館先道路沿い	
		上高江	10:50~11:00	橋ノ口橋付近	
			11:05~11:15	峰山地区運動公園先三文字	
		長崎	11:25~11:35	松田興業隣、リサイクル集積場	
	高江住宅	11:45~12:00	高江住宅駐車場		
	峰山	永田	14:00~14:15	リサイクル集積場	
		郷鳴	14:15~14:25	リサイクル集積場	
			14:30~14:40	徳田自治会長宅の庭	
	文田	14:50~15:00	松若宅付近		
	港町	船間島	15:15~15:25	ゴミステーション先道路沿い	
	寄田	池ノ段	15:45~15:55	池ノ段集会所前	
			16:05~16:15	旧寄田小手前	
		天神	16:20~16:30	十文字	
上野	16:35~16:50	広場前			

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

図3-26 2016年度 薩摩川内市移動店舗運行スケジュール②

平成28年6月から

曜日	地区	自治会	時間	場所
木	八幡	自下	10:00~10:15	斉藤工務店前空き地
		上ノ原	10:20~10:30	上ノ原三文字付近空き地
		西川内	10:40~10:45	西川内直線道路沿い
			10:50~11:05	西川内自治会館前
		白浜	11:15~11:25	白浜自治会館
			11:30~11:40	ゴミ集積場
	杉ノ角	11:50~12:00	杉ノ角会館前	
		12:00~12:10	共同墓地前広場	
	西方	白滝	14:10~14:20	3号線沿い特産品販売所前
		上町	14:25~14:35	お寺駐車場
			14:40~14:50	市営住宅
		松園	15:00~15:15	プール横駐車場
	湯田	浦小路	15:20~15:30	浦小路自治会館前
		砂岳	15:40~15:50	湯泉寺下
			16:00~16:10	湯田町2389(道路脇)
		三田	16:15~16:25	湯田町3338-2妙見橋近く道路脇
			内門	16:30~16:40
		16:40~16:50		内門地区リサイクルステーション前
伊勢美山	16:50~17:00	伊勢美山自治公民館前駐車場		
峠路	17:05~17:15	峠路自治会館先墓地横		
土	寄田	上野	10:30~10:50	広場前
			11:00~11:10	十文字
		天神	11:15~11:35	旧農協前
			11:40~11:50	神社前
		池ノ段	11:55~12:05	小瀬戸道路脇
			12:10~12:40	池ノ段集会所前
	陽成	一条殿	14:30~14:40	田中洋子宅入口
			14:45~14:55	倉庫広場
		中麦	15:00~15:10	中麦公民館前
		上大迫	15:15~15:25	上大迫公民館前
	下大迫	15:30~15:40	下大迫公民館前	
	城上	小川	15:35~15:45	上小川貴太郎宅
				小川自治会館
		中間	16:00~16:15	中間自治公民館前
上塚		16:20~16:35	上塚自治公民館	

2 砂岳地区の状況

(1) 砂岳地区の概要

砂岳地区は、薩摩川内市の北西部、湯田川の下流域に位置する「湯田町」内にある。西には国道3号線が走り、それに沿って、肥薩おれんじ鉄道が運行しており、最寄駅として、町内に、薩摩高城駅が所在している。東には、川内高城温泉があり、歴史ある湯治場としての街並みを残しており、砂岳地区では、古くからの伝統芸能として「平六踊り」が受け継がれている。

町内では、2012年に、高城西中学校が閉校し、その翌々年の2014年には、湯田小学校が閉校となるなど、少子高齢化が進行している地域である。

(2) 人口・年齢構成 ※2016年4月時点

人口は557人、世帯数は328世帯

うち65歳以上の高齢人口は271人（高齢化率：48.7%）

(3) 地域の状況

①生活利便施設の状況

地区の公民館である「砂岳青少年育成会館」付近には、徒歩数分の国道3号線沿いに1軒の個人商店があり、また、徒歩15分ほどの距離にはコンビニエンスストア（ローソン）があるものの、野菜や鮮魚等の食料品の品揃えは乏しく、多くの住民が自家用車を利用し、町外のスーパー等で買物を行っている。

一方、アンケート結果では、2割弱の回答者が「自宅近くに来る移動販売車」を利用しているが、砂岳地区の住民へのヒアリングでは、移動販売車の品揃え（特に冷蔵品）に対する不満が聞かれた。

②公共交通の状況

市のコミュニティバス「北部循環バス（湯田・西方循環線）」が運行している。

湯田・西方循環線	西回り	1日7便
	東回り	1日6便

便数が少ないため、運行時刻の間隔は長いですが、バスを利用する住民の多くが、市街地まで向かい、運行時刻に合わせて、通院と買物等の複数の用事を済ませている。

その他に国道3号線沿いに複数の路線バスが運行しているが、コミュニティバスに比べ、料金が高いことから、バスを利用して通院や買物等を行う住民の多くが、コミュニティバスを利用している。

③買物支援サービスの状況 ※47頁参照

生活協同組合コープかごしまの移動販売車「コープ号」が町内を運行。砂岳地区では、青少年育成会館の前に停車する。

④その他（ボランティアグループ）

地区内の主婦が、砂岳青少年育成会館においてサロン等を開催している。特に、移動販売車が運行する毎週木曜日には、地区の高齢者が集まることから、館内でちょっとしたサロンを開催し、生活での困りごとなどを聴き取ることで、高齢者の生活支援の役割を担っている。

図3-27 薩摩川内市砂岳地区



第Ⅲ章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

3 砂岳地区の消費行動、消費者ニーズ（住民へのヒアリングによるアンケート結果）

（1）アンケート実施内容

①目的

地区の住民に対し、ヒアリングによるアンケート調査を実施し、食料品や日用品の主な調達方法等の消費行動や買物支援に対する要望などの消費者ニーズを把握することで、買物弱者対策を検討するうえでの参考データとして使用する。

②対象者

砂岳地区の住民：33名

③実施方法

地区の集会等を通じて調査票を配布。各自にヒアリングを行いながら、アンケートを実施。

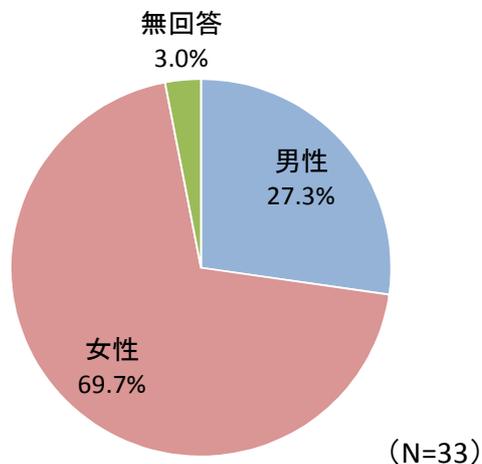
④調査項目

- ・回答者の属性（年齢、性別等）
- ・日常の食料品の購入方法
- ・日常の買物に対する意識
- ・買物支援サービスに対する意向 など

（2）アンケート結果

問1. 性別

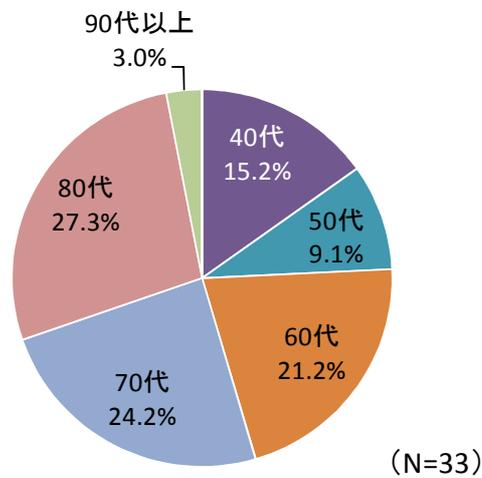
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	男性	9	27.3	28.1
2	女性	23	69.7	71.9
	無回答	1	3.0	
	N (%ベース)	33	100	32



第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

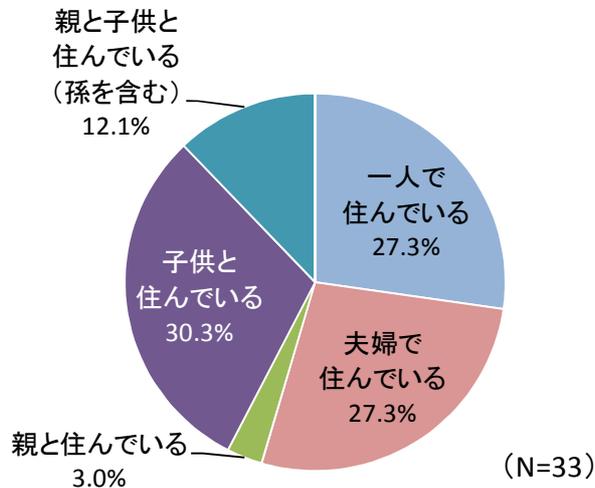
問2. 年代

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	20才未満	0	0.0	0.0
2	20代	0	0.0	0.0
3	30代	0	0.0	0.0
4	40代	5	15.2	15.2
5	50代	3	9.1	9.1
6	60代	7	21.2	21.2
7	70代	8	24.2	24.2
8	80代	9	27.3	27.3
9	90代以上	1	3.0	3.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	33	100	33



問3. 世帯状況

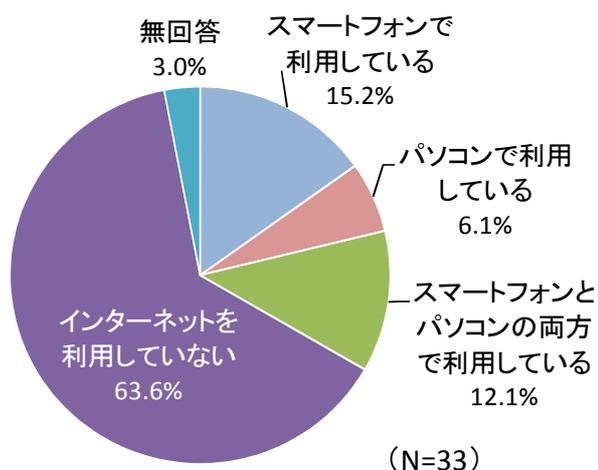
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	一人で住んでいる	9	27.3	27.3
2	夫婦で住んでいる	9	27.3	27.3
3	親と住んでいる	1	3.0	3.0
4	子供と住んでいる	10	30.3	30.3
5	親と子供と住んでいる(孫を含む)	4	12.1	12.1
6	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	33	100	33



第Ⅲ章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

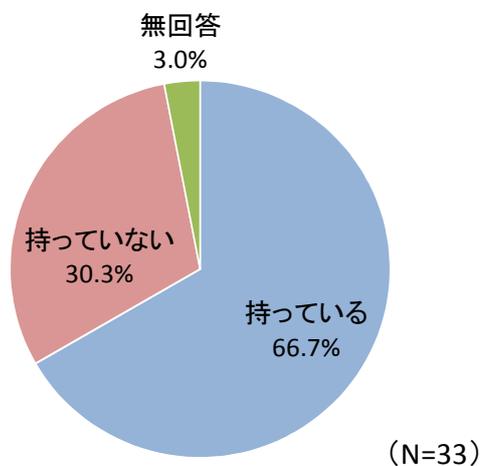
問4. インターネットの利用状況

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	スマートフォンで利用している	5	15.2	15.6
2	パソコンで利用している	2	6.1	6.3
3	スマートフォンとパソコンの両方で利用している	4	12.1	12.5
4	インターネットを利用していない	21	63.6	65.6
	無回答	1	3.0	
	N (%ベース)	33	100	32



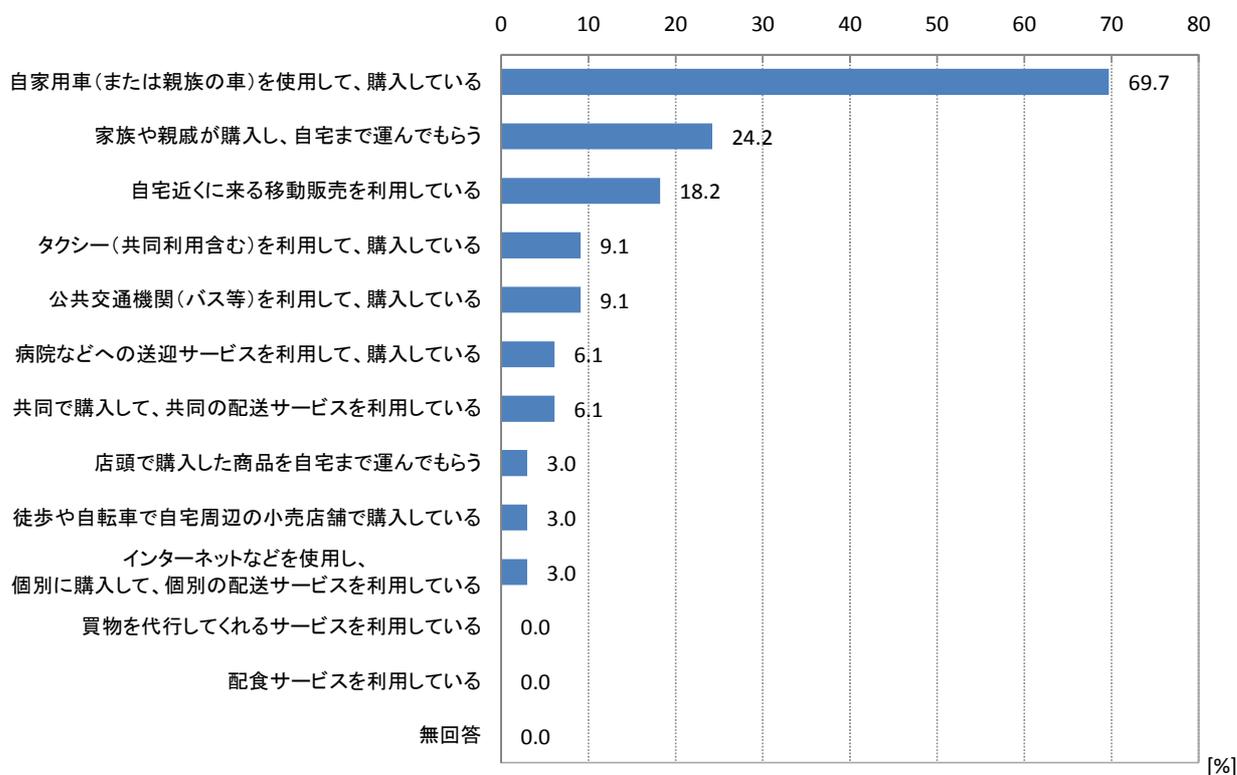
問5. 自家用車の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	持っている	22	66.7	68.8
2	持っていない	10	30.3	31.3
	無回答	1	3.0	
	N (%ベース)	33	100	32



第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

問6-1. 日常の食料品の購入方法



(N=33)

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

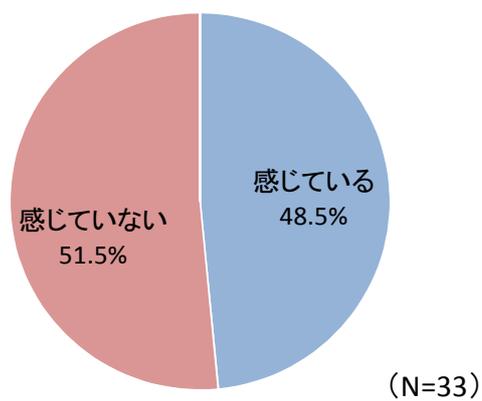
問6-2. 日常の食料品の購入方法（詳細）

自分で移動して購入							
カテゴリ	①徒歩や自転車で自宅周辺の小売店舗で購入している。	②自家用車（または親族の車）を使用して、購入している	③公共交通機関（バス等）を利用して、購入している	④タクシー（共同利用含む）を利用して、購入している	⑤病院などへの送迎サービスを利用して、購入している		
利用回数							
利用回数平均（週あたり）	3回	3.20回	1.38回	1.19回	3.63回		
利用料金平均（月額あたり）	—	—	4,200円	4,320円	840円		
自宅への配達							
カテゴリ	⑥家族や親戚が購入し、自宅まで運んでもらう	⑦配食サービスを利用している	⑧買物を代行してくれるサービスを利用している	⑨共同で購入して、共同の配送サービスを利用している	⑩インターネットなどを使用し、個別に購入して、個別の配送サービスを利用している	⑪店頭で購入した商品を自宅まで運んでもらう	⑫自宅近くに来る移動販売を利用している
利用回数		該当なし	該当なし				
利用回数平均（週あたり）	1.53回			1回	0.04回	3回	1.75回
利用料金平均（月額あたり）	—			—	—	—	—

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

問7. 日常の買物に関する『不便さ』について

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(無回答除く)%
1	感じている	16	48.5	48.5
2	感じていない	17	51.5	51.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	33	100	33



第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

問8. 『不便さ』に対する自由意見

<買う場所がない>

女性	40代	買う場所はコンビニ1ヶ所のみ。(車の運転が出来る) 今は良いが、今後年齢を重ねていくと非常に不安でならない。
女性	40代	自宅の周辺に店がない。
女性	40代	近くにスーパー等がない。
女性	40代	買う場所がない。
女性	60代	品物によっては遠くまで行く。
女性	60代	すぐに使いたい商品が欲しい時でも20分程(自家用車)の距離のスーパーまで行かなければならない。
男性	70代	買う場所がない。
女性	70代	経済的に考えてくれる店。移動販売など特別な店では困ります。田舎にいて、不自由を考えてくれる、品数、金額など納得の出来るお店があれば大変助かります。
女性	80代	店がない。
女性	80代	店が少ない。
男性	90代以上	ローソン(しかない)。

<買う手段がない>

女性	40代	高齢の方、特に車の運転の出来ない方はとても大変だと思う。ネットショッピング等、若者世代が仲介に入り、代理注文→届けて→集金出来たら、高齢者の方へ役立つのではないか。
男性	60代	車がない。高齢。
女性	60代	バスの本数が少ない。
男性	70代	車がない。
女性	70代	バスが大きすぎる。マイクロにして欲しい。
女性	70代	車はあっても年を取れば、体調的に乗りにくい時もあり、やっとな無理して町に出掛けると運転にも不安があり、無事に帰れてホッとする時もあるのです。
女性	80代	車がない。
男性	90代以上	娘がいるから今は良い。

<買う物（品揃え）がない>

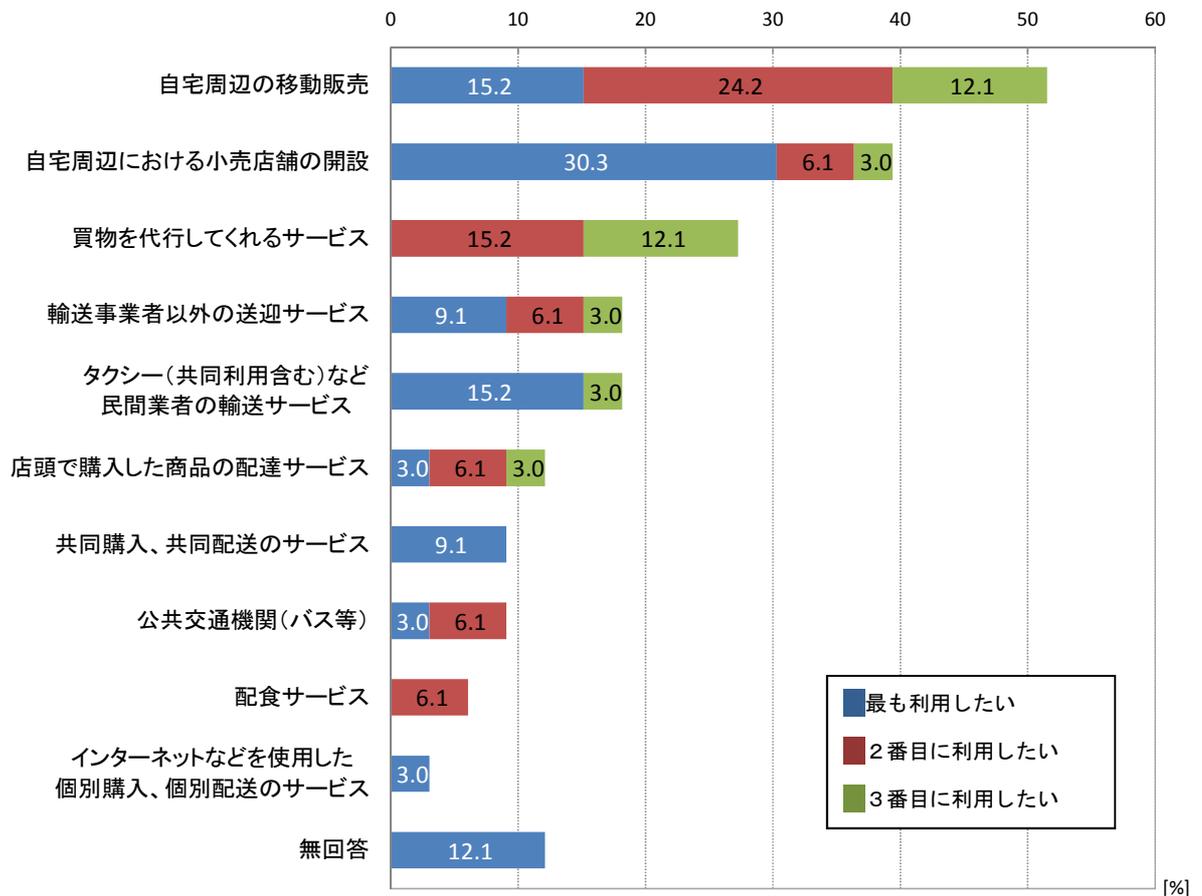
女性	60代	バスで10分くらいの所に農協があるが、品切れのことが多い。商売っ気が無い。
女性	60代	生もの。
女性	60代	野菜類をもう少し量を増やしてほしい。
男性	70代	魚介類。調味料品。豆腐。
女性	70代	肉、鮮魚が欲しい。
女性	70代	まず、食料品、飲み物、薬。コンビニ価格では困ります。市内のスーパー価格、なるべく安く経済的に助かる物があってほしいのです。コンビニでは困ります。
女性	80代	新鮮な物がない。
男性	90代以上	買う物がない。

第三章 各地の状況（3. 薩摩川内市）

<上記を解決するサービスがない>

女性	40代	移動販売はあるが、それだけでは物足りないと感じる。
男性	60代	移動販売が来るけど、後ろの順番だといいい物が売れてしまっている。
女性	60代	移動販売が来るけど高い(割高)。
女性	70代	移動販売でお金がおろせると嬉しい(さつま町が参考)。
女性	70代	すべての利用につき、手数料を取られるのは困ります。市の補助なども利用して、生活が楽になるように助けて下さればと思います。
女性	80代	せめて月に1回でも来てくれたら良い。
女性	80代	解決するサービスがない。
男性	90代以上	足が不自由で重たい物が大変。

問9. 日常の買物について、利用したいサービス



(N=33)

第Ⅲ章 各地域の状況（3. 薩摩川内市）

4 砂岳地区の課題及び対策の検討

（1）課題

調査結果からみえてきた砂岳地区における課題として、以下が挙げられる。

<地域の状況>

- 人口減少・高齢化が進んでおり、高齢化率は48.7%と約半数が高齢者である。
- 買物施設は、個人商店やコンビニエンスストア等があるものの数は少ない。
また、近隣の買物施設においては、生鮮食料品の品揃えが乏しい。
- 週に1回、生活協同組合コープかごしまの移動販売車「コープ号」が町内を運行している。
- 地区内の主婦を中心に、移動販売車の運行日にサロンを開催しており、高齢者の生活での困りごとなどを聴き取ることで、生活支援の役割を担っている。

<消費行動、消費者ニーズ（アンケート結果）> ※回答者の72.7%が60代以上

- 日常の買物について、48.5%と半数近くの回答者が「不便さ」を感じている。
- 不便さの内容として、「買物施設が少ない（近隣に無い）」、「生鮮食料品が手に入らない」、「バスの本数が少ない」等が挙げられている。
- 日常の買物の際に利用したいサービスについて、「移動販売」が最も多く、回答者の51.5%が挙げている。また、「小売店舗の開設」が39.4%と2番目に多くなっている。

（2）総合計画における買物弱者対策の方向性 ※46頁再掲

「第2次薩摩川内市総合計画」では、施策の方向性として以下を掲げている。

- ◆都市機能の集積やインフラ整備等により、本市の核となる拠点を形成し、その他の地域との連携を向上することで、安心して快適な生活環境の整備を図る。
- ◆自ら課題解決できる地域の自立を促すため、地域の特色ある活動やコミュニティビジネスの展開と定着化を図る。

（3）砂岳地区における買物弱者対策の検討

上記より、砂岳地区における買物弱者対策として、以下が想定される。

- 商業機能の集積した“中心市街地”と“周辺地域”との連携向上を図ることで、市街地の買物施設が“買物の機会”を周辺地域で提供することを促し、市全体での住民の生活利便性の向上を図る。
- 地域住民が中心となり、コミュニティ活動等において、高齢者の買物を支援するなど、地域力による買物弱者対策を実施する。

第Ⅲ章 各地域の状況（3. 薩摩川内市）

砂岳地区における買物弱者対策の検討フロー

課題Ⅰ：地域の状況

- ・人口減少・高齢化が進んでおり高齢化率は48.7%
- ・買物施設の数はなく、特に生鮮食料品の購入が困難
- ・移動販売車が週1回運行
- ・地区内の主婦を中心に、サロンを開催しており、高齢者の困りごとを聴くなど、生活支援の役割を担っている

課題Ⅱ：アンケート結果 消費行動、消費者ニーズ

- ・「不便さ」を感じている人が約半数
- ・不便さの内容は、「買物施設が少ない」、「生鮮食料品が手に入らない」などが挙げられている
- ・日常の買物の際に利用したいサービスは、「移動販売」が多く、次いで「小売店舗の開設」が挙げられている

「第2次薩摩川内市総合計画」の方向性

- ・都市機能の集積やインフラ整備等により、本市の核となる拠点を形成し、その他の地域との連携を向上することで、安心して快適な生活環境の整備を図る。
- ・自ら課題解決できる地域の自立を促すため、地域の特色ある活動やコミュニティビジネスの展開と定着を図る。

想定される買物弱者対策

- ・商業機能の集積した“中心市街地”と“周辺地域”との連携向上を図ることで、**市街地の買物施設が“買物の機会”を周辺地域で提供**することを促す。
- ・地域住民が中心となり、コミュニティ活動等において、高齢者の買物を支援するなど、**地域力による買物弱者対策**を実施する。